

2022

Global
Human
Sciences

神戸大学国際人間科学部

人という始源、 地球という舞台。

グローバルイシューへの挑戦

国際人間科学部は、深い人間理解と他者への共感をもって地球的規模の課題に向き合い、世界の人々が多様な境界線を越えて共存できる「グローバル共生社会」の実現に貢献する「協働型グローバル人材」を養成します。現代の世界には、環境、災害、民族、宗教、経済格差、人権、教育、社会福祉等に関わり、現代社会が地球規模での協働を通して取り組まなければならない課題（「グローバルイシュー（global issues）」と呼びます）が数多く存在しています。本学部では、様々な専門分野からこのグローバルイシューの構造を明らかにし、多様な境界線を越えて人々と自在にコミュニケーションをとり、課題の共有と解決に向けてリーダーシップを発揮できる「協働型グローバル人材」を社会に輩出することを目指します。



アドミッション・ポリシー

国際人間科学部では、グローバル社会で生起する環境、災害、民族、宗教、経済格差、人権、教育、社会福祉等に関わる諸課題を深い人間理解と他者への共感をもって解決し、世界の人々が多様な境界線を越えて共存できる「グローバル共生社会」の実現に貢献する「協働型グローバル人材」を養成することを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

国際人間科学部の求める学生像

- 1 現代社会の諸問題を発見し、その問題を多面的にとらえて考察し、自分の考えをまとめる基礎的な能力を有する学生
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力〕
- 2 異なる考え方や文化を尊重し、共感をもって、積極的にコミュニケーションを行う資質を有する学生
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性、関心・意欲〕
- 3 国内外の様々な人と連携・協働して、地球規模で問題を解決し、社会に貢献しようとする意欲を持つ学生
〔求める要素：主体性・協働性、関心・意欲〕





神戸大学 国際人間科学部

学部長からのメッセージ	2
先輩からのメッセージ	3
カリキュラム・施設	4
グローバル教育	6
グローバル体験	8
学部を構成する4学科	9
カリキュラム	18
教員紹介	22
国際交流	28
主な協定校	29
学生生活	30
募集人員、取得可能な資格免許、沿革	32
アクセス	33





青木茂樹 教授
国際人間科学部長

Message From Dean

21世紀になって、情報通信技術の進化や交通手段の発達により、人や物および情報の国際的移動が大きく活発化し、人も国も外国と無縁ではられない時代となっています。

このようなグローバル化が急速に進む世界の中で、私たちの身の回りでもさまざまな課題が浮かび上がっています。地球的な資源・エネルギーの制約や環境の悪化、富の偏在などによる分断や格差の拡大、少子高齢化などの人口問題など個人や一国では解決できない課題が地球上のいたるところに存在しています。さらに新型コロナウイルスの世界的感染拡大は、それ自身グローバル化により深刻さが増大した問題でもあります。その結果引き起こされている事態は、格差の拡大などの前述の諸問題の存在をあらためてあぶり出すことにつながっています。

これらの中には、時に関係者・関係国の利害が大きく対立する問題も数多く、こうした問題には、さまざまな人々が地球規模で境界を越えて協働することの重要性が認識されつつあります。そして、その動きをより確かなものにするため、複眼的な視点と柔軟な姿勢をもち国内外で地球的課題（グローバル・イシュー）に積極的に関わる人々の養成が不可欠といわれます。

そうした中、神戸大学は2017年に国際人間科学部を創設しました。国際人間科学部では、深い人間理解と他者への共感をもって地球的課題と向き合い、多様な人々が共存する「グローバル共生社会」の実現に向けて貢献する「協働型グローバル人材」を育成することを目的としています。国際人間科学部は、神戸大学の国際文化学部と発達科学部を再編統合して作り上げた学部です。2つの学部はそれぞれ「異文化理解」「人間発達」をキーワードとして四半世紀前に設置された学際系学部です。この2つの学部で醸成された強みと特色を最大限に活かし、国際人間科学部は新たな時代に向けて「協働型グローバル人材」の育成につとめています。2021年3月に最初の卒業生を輩出したばかりの新しい学部ですが、未来への道を模索すべく教員と職員が学生諸君と一体となって実践的な学問プロジェクトに挑戦し邁進しています。熱意あるみなさんが、この学問共同体に参加されることを強く期待します。

ストリートダンスの創造性とは？

私は、2024年のパリオリンピックでは正式種目となり、最近では日本発のプロリーグが発足される等、近年注目が高まっているストリートダンスを対象に、認知科学的な研究をしています。ダンスと一口で言っても研究のアプローチは様々ですが、私の場合は、ソロとバトルでの初心者と熟達者の動きをマーカーレスモーションキャプチャにより数値化し、ストリートダンスの創造性の特徴を明らかにしようとしています。自分が所属するダンスサークルでの経験を生かして研究を進め、ダンスの発展の一助となるような実りある成果を得ることができればと思っています。

木村亮太

グローバル文化学科
グローバル・コミュニケーション
プログラム 4年



自らの知的好奇心を掘り下げられる楽しさ

私は社会心理学の分野に関心があり、ゼミではジェンダーについて社会的・心理的な両面側から検討する方法を学んでいます。最も関心があるのは、「らしさ」に縛られない生き方が可能になった社会にあたって、ジェンダーステレオタイプの現状——変化したものと変わらないもの——について検討し、理解を深めることです。これは私が男子に混じってスポーツを続けてきた実体験から生じた関心であり、このように自分の知的好奇心をくすぐる研究に取り組めるところに大学の魅力を感じています。卒業後は女性活躍に繋がる取り組みを行いたいと考えています。

福成真琴

発達コミュニティ学科
アクティブライフプログラム 4年



哲学を活かして考える面白さ

私は現在、ゼミで哲学について学んでいます。高校で学んだ倫理をきっかけに、もっと深く学びたいと思ったからです。ゼミでは参加者がそれぞれ好きな哲学者の著書を読み、みんなとことん議論するので、様々な理論や考え方を理解し、多様な視点から考える力が鍛えられます。私が読んでいるのは、ジョン・ロールズという人の『正義論』という本です。50年ほど前の社会問題を論じた本なのに、現代の社会問題に結びつけて考えることができ、そこが面白く、また大事な点なのだとかわかってきました。こうして学んだ、多様な視点から考える力は、きっと卒業後も生きる力になると思います。

大岩響子

環境共生学科
社会共生科学プログラム 4年



みんなが納得できる的確な支援を行うために

私は、学級担任が行う、発達障害のある子どもへの支援に対して、周りの子どもはどう感じているのかについて興味がありました。特に、次の2つの点、①周囲の子どもの受け入れ態度の分析と、②発達障害のある子どもが、支援を受けやすくするための方法、について研究をしたいと思います。そこで、発達障害臨床学のゼミに所属し、発達障害のある子どもに対する支援について学びながら、研究を深めています。卒業後は研究成果を活かして、質の高い教育と的確な支援が行える小学校の先生になれたらいいなと思っています。

富山成希

子ども教育学科
学校教育学コース 4年



学びの特色

1 グローバルな発信と課題解決のための基礎をつくる

グローバル社会に対し即応可能な発信力を養うため、複数言語でのプレゼンテーションやライティング、またICTによる情報発信など、目的に応じて多数開講される科目を受講し、十分なコミュニケーション能力を身につけます。また、グローバルイシューの現場で実際に情報を収集・分析するために必要な技能を身に付けることを目的として、多様な人々と協働しつつ課題解決に向けて先導する能力を開発するための「協働型リーダーシップ論」や、フィールド学修を通して実際のグローバルイシューの実態を把握するために必要な基本的技能を培う「フィールドワーク方法論」などの専門科目を学び、実践的対応力を習得します。

2 実践的なグローバルを体験する (詳細は、p.6へ)

グローバルイシューの解決のために多様な人々と協働し、その活動の中でリーダーシップを発揮する行動力を身に付けるための実践型教育プログラムとして、「グローバル・スタディーズ・プログラム (GSP)」を設置しています。このプログラムでは、専門性と希望に応じ用意されたコースの中から、学生全員が自らの海外での学びの場を選択し、学修の具体的な課題を自ら設定して、海外研修と国内外でのフィールド学修に参加します。GSPを通じて得た具体的な体験から、グローバルイシューを解決する際に必要な問題意識や実践的な視点を獲得し、それらを理論的知識に接合して、自らの将来のキャリア形成に活かしていきます。

3 多角的視点から専門的知識を身に付ける

「異文化理解」「人間発達」「環境共生」に視点をおき、多文化をめぐる複雑な問題の解決への道筋を提案する発信力、「人間の発達」の諸相を理解しそれを支えるコミュニティの形成を実現する実践力、共生社会を支える環境の創出と保全に寄与する分析力と行動力、さらに、これと連携し次世代指導者を育成する教育力を身に付けるための専門的知識を学びます。ラーニングcommonsなどの施設、フィールド学修、広い知見と豊富な経験をもつ教員の配置など、全ての形式の授業（講義、演習、実験・実習）においてアクティブ・ラーニングを推進する環境を通じて、専門的知識をベースに、自ら課題を発見し解決する力を養います。

1年次		2年次	
基礎能力を得る		専門知識を得る	
		応用力と実践力を得る	
<p>教養科目 「複眼的に思考する」「多様性と地球的課題を理解する」「協働して実践する」能力を伸ばすための科目</p>			
<p>グローバル文化学科 発達コミュニケーション学科 環境共生学科 子ども教育学科</p>	<p>学部共通科目</p> <p>グローバル・スタディーズ・プログラム (GSP) 他者と協働しつつリーダーシップを発揮する知的行動力を身に付けるための実践型教育プログラム</p>		
	<p>[基礎科目] 協働型グローバル人材として活躍するために不可欠な基礎的能力を向上させるための科目</p> <p>[発展科目] さらに洗練されたグローバルリテラシーを身に付けるための科目</p>		
	<p>学科専門科目</p> <p>[共通科目]</p>		
	<p>[コア科目] 各学科において、専門性を深く学修するために必要な基礎的知識を得るための科目</p> <p>[展開科目] 各学科において、より発展的な専門知識を修得し、実践力、問題解決能力を修得するための科目</p>		

交流スペース



2つのキャンパスには、学生同士が活発に交流できるスペースとして、それぞれ「Intercultural Cafe」(鶴甲第1キャンパス)、「Global Human Science Cafe」(鶴甲第2キャンパス)が置かれています。特に、毎年、世界各国から多くの留学生が学ぶ国際人間科学部では、これらのスペースの利用やそこで実施される行事への参加を通じて、様々な文化的背景を持つ学生と交流し、多種多様な世界の文化に触れ、理解を深めることができます。

ICT関係の設備

無線LAN、学内ネットワーク、教育用端末、PC必携化、図書館データベースなど



国際人間科学部のほぼすべての教室や共有スペースにおいて、学内無線LANへのアクセスが可能です。また、神戸大学では、教育・研究・学習の目的で、Apple社のiMacを約1300台設置しており、本学部においても利用することができます。神戸大学では、高度情報化社会において情報通信技術の十分な活用能力を有する人材を育成し、それらの技術を活用した教育の提供を目的に、パソコンの必携化を実施しています。学修支援システム (BEEF等) を利用した双方向授業、レポートの作成・提出、講義資料の閲覧、電子雑誌・図書の閲覧等にパソコンを活用します。



鶴甲第1キャンパス

グローバル文化学科



鶴甲第2キャンパス

発達コミュニティ学科
環境共生学科
子ども教育学科

3年次

4年次

研究に取り組む

→詳細は p.6

卒業研究

大学院進学

国際文化学研究科
人間発達環境学研究科
その他の国内外の大学院

就職

一般企業 公務員
国際機関 教員
NPO・NGO 等

詳細は、
グローバル文化学科…………… p.10
発達コミュニティ学科…………… p.12
環境共生学科…………… p.14
子ども教育学科…………… p.16

ラーニングcommons (Learning Commons)



ラーニングcommonsとは、学生や教職員が自由に利用できる創造的学習のためのスペースです。教室とは異なるオープンな場であり、学生が自由に出入りして多様な人と交流しつつ、学問の垣根を超えた議論を通じて、開かれた協同の学びを実践する場であることをコンセプトとしています。国際人間科学部には、鶴甲第1キャンパスに4箇所、鶴甲第2キャンパスに4箇所のラーニングcommonsが設置され、学生同士が話し合いながら行うグループ学習や、ゼミ・発表の準備、プレゼンテーションの練習などに活用されています。

図書館



神戸大学附属図書館は、各学部・研究科の研究領域をサポートする専門図書館と、総合図書館の合計9つの図書館から構成されます。国際人間科学部では、鶴甲第1キャンパスに総合・国際文化学図書館、鶴甲第2キャンパスに人間科学図書館が設置されています。また、ウェブ上で読める雑誌や本のほか、新聞記事、論文情報などを調べられるデータベースが充実しています。また、ガイダンス、講習会、各種イベントを通して、データベースの使い方やレポートの書き方など、大学生活に役立つスキルを演習形式で学ぶこともできます。

本学部生全員が海外研修とフィールド学修に参加

Global Studies Program (GSP) グローバル・スタディーズ・プログラム

グローバル・スタディーズ・プログラム (GSP) とは、実体験を通してグローバルイシューについて学ぶことを目的とし、本学部生全員が海外研修とフィールド学修に参加する実践型教育プログラムです。国内外の多くのフィールドで実施される個別プログラムへの参加を通じて、グローバル社会の課題解決を目指して多様な人々と協働し、その中でリーダーシップを発揮していくために必要な力を自らの中に育てていきます。

*2020年度～2021年度上半期は新型コロナウイルスの感染拡大のため、オンライン海外研修や海外代替要素のある国内研修によってプログラムを実施しました。

1 グローバルイシューの現場での実践的な取り組み

「グローバルイシュー概論・演習」を通じ、文理の境界を越えた様々なグローバルイシューについて学びます。そこで培った自らの興味・関心にもとづき、学生自身がテーマ設定をして、海外、国内の「現場(フィールド)」を選択します。フィールドで実際に様々な人々と出会い、協働することを通して、より広い視点から自らのテーマをグローバルイシューとして深化させ、その解決を模索します。

2 多様なプログラム

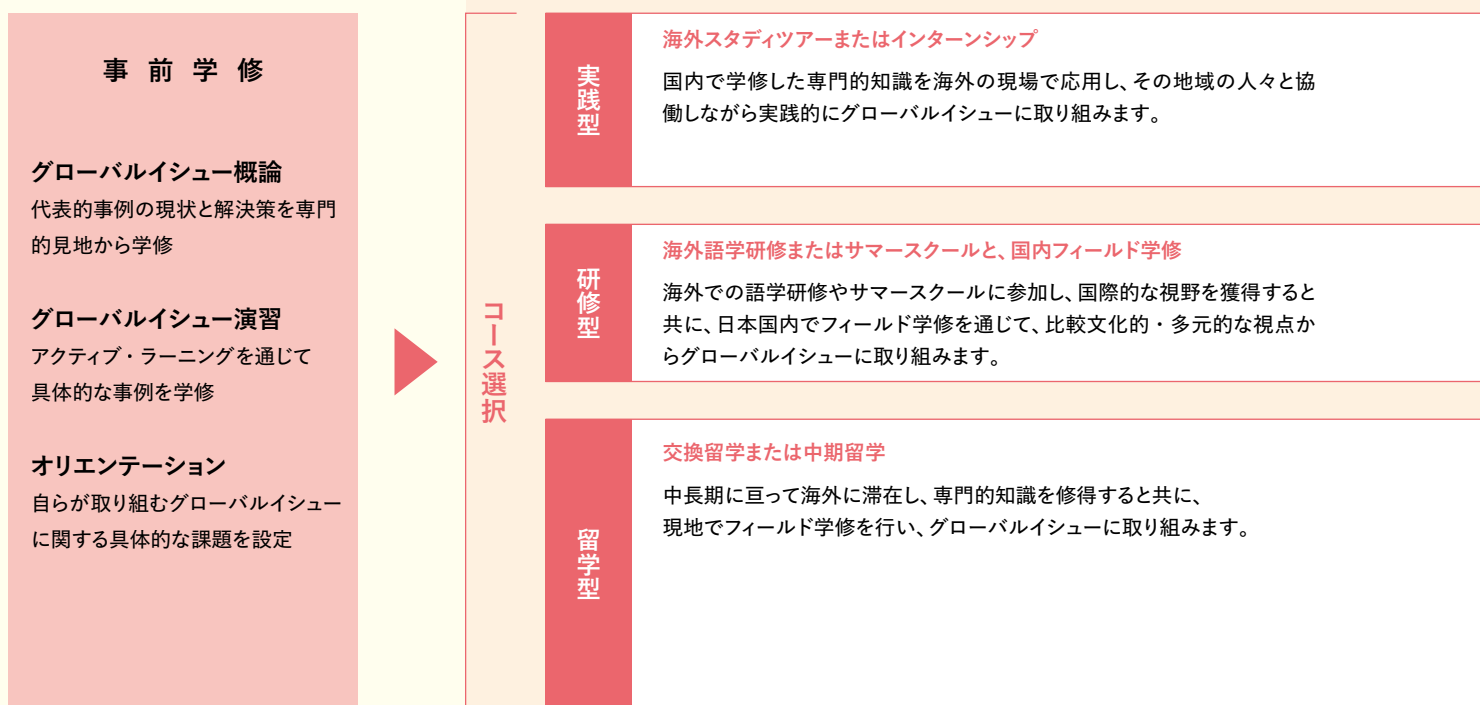
GSPでは、研修の期間、内容、フィールド学修の場所によって、「実践型」「研修型」「留学型」という3つのグローバル・スタディーズ・コース(GSコース)が設定されています。学生は、自らの学修計画に応じて、一つのGSコースを選択し、さらに各コースのもとにある合計100を超える個別のプログラムの中から、自分が取り組むグローバルイシューに最も適したプログラムに参加します。

3 学生一人一人の専門性に合わせた学修指導—GSPオフィス

GSPでの学修を支援するために、GSPオフィスを設置し、オリエンテーション・リフレクション、渡航ガイダンス、危機管理オリエンテーション等、きめ細かい情報提供と学生の主体性を引き出す指導をしています。

GSPの流れ

GSPは、事前学修、GSコース(海外研修とフィールド学修)、事後学修の3つのステージで構成されます。



(注) 個別のプログラムへの参加費用や必要となる保険加入等は自己負担となります。海外研修に係る学生の経済的な負担を軽減するため、神戸大学の助成制度や日本政府の支援制度を活用することができます。



GSPオフィス

海外研修やフィールド学修の豊富な経験をもつコーディネーターが常駐しており、学生一人一人がGSPの各科目を効果的に学修し、目的を達成できるよう、学業と海外生活の両面についてアドバイスをを行います。各種プログラムに関する最新情報の提供や海外研修のための奨学金の紹介も行っています。渡航前の「オリエンテーション」での危機管理に関するアドバイスの他、神戸大学全体はもちろん、海外危機管理専門の機関とも連携しながら、渡航中の学生の安全確認等を実施します。



コース別プログラム例

日本で学び、海外でフィールド学修を行う

- 障害者権利擁護運動に接する（米国 ミネソタ州）
- 非破壊機材で農産物分析をする（カセサート大学（タイ））
- バリで環境教育を学ぶ（インドネシア）
- アートマネジメント・芸術教育を学ぶ（オーストリア）

海外と日本で学び、日本でフィールド学修を行う

- 民族文化の継承…… 民族音楽を学ぶ（イラン）+人形浄瑠璃に関するフィールドワーク（淡路島）
- 移民児童の教育…… 英語研修（ウェスタン大学（カナダ））+外国人児童支援NGOでインターン（神戸市）
- アカデミック英語研修（ケンブリッジ大学ホマートンカレッジ）+サイエンスショップでボランティア

海外の大学で学び、海外でフィールド学修を行う

交換留学

1年もしくは半年の協定校（p.29参照）との交換留学です。神戸大学に学費を納める代わりに、協定校での学費・入学金を免除されます。協定校で修得した単位を神戸大学の単位として算入することができます。留学を計画的に行えば、4年間での卒業が可能です。

中期留学

6週間から6か月にわたって、英語研修や専門の講義を受講すると同時に、自ら企画・設定したフィールド学修に取り組みます。

GSPオフィス教員

室長	村尾 元 教授
副室長	國土将平 教授
統括コーディネーター	落合知子 准教授
コーディネーター	正楽 藍 講師
コーディネーター	水野直子 講師
コーディネーター	榎井克明 講師
コーディネーター	篠原華子 助教



GSPに関する
Q&A

事後学修

リフレクション

（GSコースでの体験の共有）

グローバルな課題に対する
自己の実践の意義づけ

フィールド学修についての
成果発表とレポート作成

グローバル体験

Global Experience

GSPを通して、国内外で様々な体験をした先輩たちのメッセージを紹介します。



中国の都市部と地方部を経験するなかで
精華大学（中国）へ交換留学

石井博志
グローバル文化学科 4年

留学型
GSコース

私は春節に親戚のいる山東省の小さな農村に滞在している最中、新型コロナウイルスの影響により北京に戻ることができず、半年間をそこで過ごすこととなりました。そこでは小麦の種まきから収穫までの農村での生活を体験すると同時に、頻繁に断水や停電が発生するインフラの脆弱さも経験しました。活気あふれる先端都市の北京との差は非常に大きく、否応なく中国における都市と地方の格差を感じるようになりました。この経験から私は社会の基盤に関わる仕事の重要性を学び、将来は日本の根幹を支えるような仕事に就きたいと考えています。



世界中の友人と共に学び得たこと
高麗大学校
インターナショナル・サマー・キャンパス

小畑美優子
環境共生学科
2021年 3月卒業

留学型
GSコース

私は英語研修のみではなく、英語に興味のある分野の授業を、世界中の学生と共に生活をしながら学べという点に魅力を感じこのプログラムに参加し、まさにここでしかできない貴重な学びが出来ました。英語でのコミュニケーションや講義、様々な国から来た学生との生活は、大きな挑戦でしたが、世界中にできた友人、英語に対する苦手意識の変化、他分野の学びへの関心など多くのものを得ることが出来ました。この経験を通し色々な国の人々と関わりながら仕事をしたいという思いが強まり、そのような環境で働くことが出来る進路を決定しました。



学びの質を決めるのは、
環境ではなく意欲
EDUCULTスタディツアー：
ウィーンで学ぶ文化政策、アートマネジメント、
芸術教育（オンラインで参加）

有村織恵
発達コミュニティ学科 4年

実践型
GSコース

私は、芸術活動と社会の橋渡しを行うアートマネジメントや、劇場運営を実践的に学ぶために、このプログラムに参加しました。今年は、オンラインでの開催となりましたが、ビデオ通話などを用いて、ウィーンの街の雰囲気を感じ、芸術政策についてしっかり学ぶことができました。そして、どんな環境でも学ぶ意欲さえあれば、多くのことを吸収できると実感しました。現地に行けなかったからこそ、将来、自分の足でウィーンを訪れたいと強く思っています。この学びを活かし、現在参加している子供への芸術普及活動を、今後も継続していきたいです。



外国につながる子どもたちへの
学習支援プログラム：こくさいひろば芦屋
ウェスタン・シドニー大学：
ボランティア対応英語コース

矢谷徳行
子ども教育学科 3年

研修型
GSコース

私は、子ども教育学科にて、小学校教師を目指し学習に取り組んでいます。小学校では外国語の教科化が行われ、より英語教育に注目が集まっている中、自身の語学力向上や児童に教える経験を増やすことができると考え、この研修型プログラムを選びました。国内フィールドの外国国籍の学生に対する学習支援では、生徒の学習における躓きや、日常生活における悩みを知ることができました。海外では、オーストラリアで3週間の語学研修に参加し、異文化におけるコミュニケーションスキルを磨くことができたと思います。いずれの経験も、人との関わり合いの中で生まれる貴重な時間だったと感じています。このご縁を大切に、今後の学習や研究に励んでいきたいと思っています。

交換留学生メッセージ



BOS Kevin Cornelis
ボス・ケヴィン・コルネリス
[出身校] ヘント大学（ベルギー）

私はベルギーのヘント大学で日本学を勉強しています。日本語能力と日本社会の理解を深めるために、神戸大学へ留学しました。もちろん観光したり友達を作ったりしたかったです。受講したコースの大部分は日本語とコミュニケーション関連のコースでした。これは、社会活動の外で、他の学生と簡単に交流できるようにするためでした。最後に、現代社会に興味があるので、「現在日本プログラム」からさまざまなコースを選択しました。障害共生教育や法律などについて学びました。すごく面白かったです。最初はとても緊張しましたが、問題があったら、先生とGSPオフィスとTRUSSの皆さんはすぐに手伝ってくれました。留学の経験は、自己啓発に役立ちました。神戸大学での時間を本当に楽しめました。



Clare Elizabeth Learoyd
クレア・エリザベト・リーロイド
[出身校] ライプツィヒ大学（ドイツ）

I study Japanologie at Leipzig University in Germany. I chose to study at Kobe in the Faculty of Global Human Sciences, not just because I wanted to improve my Japanese but also to take other classes that interest me, like politics and ethics. My exchange year at Kobe University was fantastic. The courses are rich and well-structured, and the teachers are friendly and engaging. The Faculty of Global Human Sciences also has a strong emphasis on intercultural exchange; I found there were so many opportunities to make new friends, to learn about and experience Japanese culture, as well as to share my own culture with my peers. I met such a diverse group of people and made some life-long friendships. Kobe University also has an excellent support network—I felt at home from day one. Not to mention the city and surrounding areas are absolutely beautiful. I'm so glad I chose to study at Kobe University and will definitely return to visit in the future.



学部を構成する4学科

グローバル文化学科 10

地域文化系プログラム
異文化コミュニケーション系プログラム
現代文化システム系プログラム
言語情報コミュニケーション系プログラム

取得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）

発達コミュニティ学科 12

社会エンパワメントプログラム
心の探究プログラム
アクティブライフプログラム
ミュージックコミュニケーションプログラム
アートコミュニケーションプログラム

取得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）

環境共生学科 14

環境自然科学プログラム
環境数理科学プログラム
生活共生科学プログラム
社会共生科学プログラム

取得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）

子ども教育学科 16

学校教育学コース
乳幼児教育学コース

取得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）
学士（教育学）（Bachelor of Education）

Department of Global Cultures

グローバル文化学科

本学科では、多文化間の境界を乗り越えるグローバル共生社会を実現するため、高度な外国語の運用能力とICT教育に基づく情報分析力や発信力を駆使して、異文化間のコミュニケーションと相互理解を率先して推し進め、多文化状況、文化交流、文化摩擦等をめぐるグローバルな課題の解決への道筋を社会に発信する能力をもつ人材を養成することを目標とします。この目標を達成するために、「地域文化系」「異文化コミュニケーション系」「現代文化システム系」「言語情報コミュニケーション系」の4つの教育研究の柱を置き、これらの切り口から人間社会における多様なグローバルイシューを解決する糸口を探していきます。

予想される進路

本学科が育成するグローバルな課題に関するリーダーシップを発揮できる人材は、現代社会の幅広い分野で求められています。卒業生の進路としては、海外展開の活発な製造業、マスコミ、情報通信業、金融業の他、外務省・経済産業省や各都道府県などの国家・地方公務員、JICA・兵庫県国際交流協会等の国際協力機関に加え、大学院進学等が考えられます。

取得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）

【プログラム選択】

地域文化系プログラム／異文化コミュニケーション系プログラム
現代文化システム系プログラム／言語情報コミュニケーション系プログラム

学びの特色

1 高い専門性とリーダーシップを 備えた人材を養成する

本学科の軸となる4つの柱「地域文化系」「異文化コミュニケーション系」「現代文化システム系」「言語情報コミュニケーション系」、それぞれに対して教育プログラムを設定しています。各自の興味や将来の進路などの目的に応じて、教育プログラムの枠を超えた柔軟な授業の選択が可能です。

2 多彩な学際的カリキュラムを通して、 専門的能力を身に付ける

それぞれの専門的能力を、受入留学生を交えた国際共修授業はもとより、多彩な語学教育、長期の交換留学制度、国内外でのフィールドリサーチやインターンシップ等、多様なアクティブ・ラーニングを利用して修得できるカリキュラムを用意しています。さらに、3年後期から4年前期にかけて「グローバル文化特別演習」において指導教員のきめ細やかな指導により学修を深め、4年に学修の総仕上げとして「卒業研究」を行い、卒業論文を作成します。

3 「留学したい」を後押しする、 長期留学をサポートするカリキュラム

選抜を経て協定大学に留学する交換留学プログラムでは、留学先で修得した授業の単位は神戸大学の単位として認定することができます。また、正規の留学中も、神戸大学に在学していますので、これらを上手く利用すれば、1年間の長期留学を含めても4年間で卒業することが可能です。



国境を越えたコミュニケーションを推進できるリーダーシップを備えた人材を養成する

地域文化系プログラム

21世紀の世界に存在する多様な文化や価値観を地域別に研究します。また、そうした地域の文化や価値観がどのように形成され、持続・変容してきたのかを、さまざまな学問アプローチから捉え、比較的・相対的な視点から地域文化を理解する力を身に付けます。

[学問領域]

日本、ヨーロッパ、ロシア・スラブ、北アメリカ、中・南アメリカ、東アジア、東南アジア、オセアニアなどの地域研究

異文化コミュニケーション系プログラム

社会経済のグローバル化に伴い、異文化間相互の分裂と統合が、国内および国境を越えて拡大しているという世界の動きを踏まえ、異文化間コミュニケーションのあり方を明らかにし、異なる文化が対話可能となるような方法を考察する能力を身に付けます。

[学問領域]

文化人類学、比較政治、国際関係論、科学史、比較文学

現代文化システム系プログラム

近代的な制度や思考の枠組みが根底から揺らぐなかで、グローバルな規模で広がる今日的な問題群に焦点を当て、現代世界を動かしている社会・文化のシステムを多角的に分析し、現代という時代について批判的に洞察する力を身につけます。

[学問領域]

社会思想史、社会学（ジェンダー、メディア、移民・難民、貧困）、法哲学、美学、表象文化論、美術史、舞台芸術論、芸術政策

言語情報コミュニケーション系プログラム

言語・感性によるコミュニケーションの可能性と問題点を発見し解析する能力や、ICTを用いた多彩な情報の収集・分析・発信に関わる能力を育成し、これらの研究成果をグローバルな課題解決に活用する能力を身に付けます。

[学問領域]

言語学、日本語教育、外国語教育、認知心理学、認知神経科学、非言語コミュニケーション、ITコミュニケーション、ソーシャルコンピューティング、情報科学、コミュニケーションデザイン

[卒業論文の例]

- ◎『申報』広告欄にみる纏足と放足
- ◎台湾における性的マイノリティ
- ◎LGBT+をめぐるポーランド政治の課題
- ◎若者に対する政治教育のアプローチ—ドイツと日本における模擬選挙プログラムの事例分析を通して
- ◎タイ人シェフの職業生活世界について—神戸・三宮で働くタイ人シェフを例に
- ◎是枝裕和監督作品における「父親」イメージ—『そして父になる』（2013年）の作品分析を中心
- ◎水洗トイレのイノベーションと日本人の排泄観

[卒業論文の例]

- ◎パレスチナ刺繍の伝統と変遷—刺繍からまなざすパレスチナ問題
- ◎現代アメリカにおける政治的分極化の要因—党派性、アイデンティティ、ソーシャルメディアから見るメカニズム
- ◎イギリス医師会の政治的主張と活動2000年以降のNHS政策を通して
- ◎韓国における女性の軍隊への参加とその意味—軍事主義との関係
- ◎電力システム改革の政治過程分析—震災以降の日本のエネルギー政策の検証
- ◎平和構築における教育の役割
- ◎東アジア地域主義を巡る国際関係—日本と中国の東アジア構想
- ◎ドイツの国籍法改正におけるネーション理解の変化について

[卒業論文の例]

- ◎ハンナ・アーレントの行為論—「複数性」の果たす役割をめぐって
- ◎M・フーコーにおける（新）自由主義批判—「生政治」概念をてがかりに
- ◎生成と秩序—カール・シュミットの近代批判・再考
- ◎ジョン・ラスキンにおける芸術的観点からの社会批判と現代
- ◎トーマス・ルフの作品における写真表現の可能性をめぐって
- ◎NGOの協働と構造的弱点—現場の語りから考える日本とフィリピン貧困地域のNGOが直面している困難
- ◎中国残留孤児に関する一考察—多様性／家族／ポスト・コロニアル
- ◎スウェーデン福祉国家における極右政党の大躍進と移民問題
- ◎日本の外国人受け入れ政策の考察—互恵的共生関係に向けて

[卒業論文の例]

- ◎インドネシア文学の翻訳比較研究—『Laskar Pelangi』を例に
- ◎二者間相互作用におけるシンクロニーに話者特性が及ぼす影響
- ◎課題非関連な恐怖刺激への注意捕捉
- ◎人生の視野を広げるための集合知によるルート検索
- ◎集合知を利用したレシピの食感テクスチャー表現の研究
- ◎宝塚はジェンダーロールを誇張するか—『ロミオとジュリエット』の日本語訳とその舞台化
- ◎日本人の英語の可算名詞・不可算名詞の間違いから見た英語教育
- ◎スポーツ選手の第二言語習得に見る学習ストラテジーについて
- ◎海外における日本アニメの受容に関する比較研究

Department of Human Development and Community

発達コミュニティ学科

人間の多様な発達と、その発達を支えるコミュニティ（多様な人々が協働する社会）を実現するために必要な能力を身に付けた人材の養成を目指します。この目的を踏まえ、人間の心理的発達や身体的発達、表現や行動の機能発達など、人間の生涯全体に関わる課題解決を行うために必要な基礎的な専門教育を行う「発達基礎」、人間の多様な発達の相互関係に着目し、グローバル社会と個人をつなぐコミュニティに関する理論の構築と実践的な課題解決を行うために必要な専門教育を行う「コミュニティ形成」という2本の柱を設定します。

予想される進路

卒業後の進路として、自治体や企業における組織・人事戦略コンサルタント、家庭裁判所調査官、地域コミュニティ創生支援事業・人材育成事業の指導者、行政や自治体の専門職、健康関連企業での専門職、国際連合機関（ユネスコ、世界保健機関等）、大学院進学等が予想されます。

取得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）

[プログラム選択]

社会エンパワメントプログラム / 心の探究プログラム / アクティブライフプログラム
ミュージックコミュニケーションプログラム / アートコミュニケーションプログラム

学びの特色

1 広い基礎知識を学び、 学びの方向を定める

1年次は、概論等の講義を通じて人間の発達とコミュニティについての幅広い知識を得るとともに、専門的知識を学んでいく上で基礎となる科目を受講します。多くの科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。

2 教育プログラムを通して、 高い専門性を身に付ける

2年次には、各自の関心や将来の進路などに応じて、5つの教育プログラムの中から1つを軸として選択します。各教育プログラムで開講される専門科目を選択して受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。

3 国内外の海外研修、フィールドワーク を通じて実践力・応用力を鍛える

専門科目の受講により高度な専門性を身に付けると同時に、国内外における活動を通じて実践的な問題解決能力を鍛えます。現場実践によって醸成した問題意識をより明確な課題設定へとつなげ、その解決に必要な具体的な手法を体系的・段階的に学びます。



人間の発達とそれを支えるコミュニティの実現に取り組む人材を養成する

社会エンパワメントプログラム

社会の様々な局面で生じる課題に人々がコミットしてゆくための方法、対人支援やコミュニティ支援に関する幅広い知識や技術を学び、あらゆる人の多様なエンパワメントを通してグローバルな社会課題が解決される専門的方法論を身につけます。

[学問領域]

ESD論、社会教育・生涯学習論、障害者共生支援論、ジェンダー論、福祉教育・ボランティア学習論、臨床哲学等

心の探究プログラム

人々の心の発達の諸相における課題を発見しその解決へと導くために、人の心とその発達を適切な方法で理解・測定する基礎的能力、現代社会の多様な支援ニーズへの対応方法についての実践的な専門的能力を身につけます。

[学問領域]

臨床心理学、芸術療法、スクールカウンセリング、臨床心理検査法、発達臨床心理学、生涯発達心理学、睡眠心理学、教育心理学、人格心理学、健康心理学等

アクティブライフプログラム

人々が健康で活動的なライフスタイルを実現するために、心身の健康やエイジング、運動行動、スポーツ活動などについて原理や方法を理解・分析する基礎的能力や創造的・実践的な専門的能力を身につけます。

[学問領域]

生活習慣と心身の健康、社会心理学、社会老年学、加齢の健康行動科学、加齢の認知心理学、加齢の身体運動科学、応用生理学、運動生理学、運動生化学、スポーツ技術論、運動心理学、スポーツ社会学、体育・スポーツ史、応用身体運動科学、公衆衛生学等

ミュージックコミュニケーションプログラム

人々の文化的で豊かな生活のため、芸術の実践と交流によって社会における多様な人々をつなぐ場を構築することを目指し、音楽の発信と受信について多面的に理解・探究する総合的能力、音楽の創造的実践的な専門能力を身に付けます。

[学問領域]

音楽療法、音楽文化史、民族音楽学、即興など演奏法・演奏論、音楽美学、音楽教育、音楽社会学、音楽理論

アートコミュニケーションプログラム

人々の文化的で豊かな生活のため、芸術の実践と交流によって社会における多様な人々をつなぐ場を構築することを目指し、文化・芸術について多面的に理解・探究する総合的能力、美術の創造的実践的な専門能力を身に付けます。

[学問領域]

舞踊学、絵画表現、近代建築史、ファッション文化論、社会情報学、認知科学、パフォーマンス科学等

[卒業論文の例]

- ◎学童保育における異年齢児交流の意味と指導員のあり方に関する研究
- ◎企業出資型学生運営カフェで働くことと社会人基礎力の関係に関する研究
- ◎対抗的公共圏における空間性の展開と課題—相模原障害者殺傷事件後の公共圏形成に着目して
- ◎イベント企画と幸福感の相関性—自身の経験を通して
- ◎セクシャル・マイノリティの人々の生きづらさの要因とその克服—トランスジェンダー当事者の語りをたよりに

[卒業論文の例]

- ◎障害幼児をもつ親の子ども親が求める療育内容及びその影響
- ◎対人不安と完全主義、自己意識、他者意識との関連
- ◎質問紙法およびロールシャッハ法から見る現代の娘が抱く父親像
- ◎小学生の学校適応感と発達障害のある子・気になる子へのかわり方の関連の検討
- ◎自己愛的甘えにおける対人ストレスイベントへの認知処理とコーピング選択
- ◎青年の過剰適応に影響を及ぼす要因について

[卒業論文の例]

- ◎成長期における食行動と心身の健康との関連性
- ◎高齢者における歩行過渡期の歩行特性—移動する床面からの歩行に着目して
- ◎認知バイアスと感情調整に加齢が及ぼす影響
- ◎社会的ネットワークが高齢者の運動習慣に及ぼす影響
- ◎新しい男性役割と結婚・恋愛に関する調査研究
- ◎季節変化がヒトの発汗機能に及ぼす影響

[卒業論文の例]

- ◎認知症高齢者の回想音楽療法における選曲
- ◎入院児童対象の音楽療法—「音楽で遊ぶ」ことの意義と役割
- ◎浅草オペラの地域受容—上演記録を通じて
- ◎戦前日本におけるモーリス・ラヴェル受容—『音楽新潮』特集記事の分析を中心に
- ◎『ミカド』上演演出の変容を探る—「イエローフェイス」問題の考察から
- ◎関西における交響楽の受容史

[卒業論文の例]

- ◎舞踊表現における共有感に関する考察
- ◎神戸のファッション文化の発展—紳士服からニュートラ、神戸系ファッションまで
- ◎振付創作プロセスにおけるコンテンポラリーダンス作品の変容—環境との関係に着目して
- ◎音楽聴取と想起される図形イメージの関連性について—音楽の音色と調性を中心に



Department of Environment and Sustainability

環境共生学科

人間と環境の調和に根ざす持続可能なグローバル共生社会の実現を目指し、身近な環境から地球環境に至る幅広い環境について、様々な問題を発見・立論し、解決に導くために必要な能力を有し、さらに、国際的な視野から課題に取り組む行動力を身に付けた人材を養成します。この目的を踏まえ、本学科は、環境の成り立ちを解析し、課題を発見・立論するために必要な基礎科学の専門教育を行う「環境基礎科学」、環境改善のための技術・システム、政府・自治体の政策、教育と市民参加、企業・NPO・NGO等の活動に関する専門教育を行う「環境形成科学」という2本の柱を設定しています。

予想される進路

卒業後の進路として、環境保全、都市開発、街づくり、農村計画、防災政策などに携わる国家・地方公務員、インフラ、エネルギー、ディベロッパー、各種メーカーなどの企業、NPO、NGO、中学校・高等学校教員、大学院進学等が予想されます。

得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）

[プログラム選択]

環境自然科学プログラム／環境数理科学プログラム
生活共生科学プログラム／社会共生科学プログラム

学びの特色

1 広い基礎知識を学び、 学びの方向を定める

1年次は、概論等の講義を通じて環境共生学についての幅広い基礎知識を得るとともに、専門的知識を学んでいく上で基礎となる科目を受講します。多くの科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。

2 教育プログラムを通して、 高い専門性を身に付ける

2年次には、各自の関心や将来の進路など目的に応じて、4つの教育プログラムの中から1つを軸として選択します。各教育プログラムで開講される専門科目を受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。

3 海外研修、フィールドワークを通して、 エキスパートとしての実践力・応用力を鍛える

専門科目の受講に加え、国内外でのフィールドワーク、多彩な調査、最先端の科学実験などにより高度な専門性を身に付けると同時に、多様な環境改善プロジェクトやNPO・NGO等の環境関連活動への参加を通じて、実践的な問題解決能力を培います。

環境自然科学プログラム

地球規模の環境問題を引き起こす多様な要因や問題が顕在化するまでの複雑なメカニズムを解明し、解決策を提案するために、自然の成り立ちや法則の理解を基礎として、フィールドワーク・科学実験・データ解析などの調査・分析・解析手法について学びます。

[学問領域]

環境物理学、物質環境、地球環境、生物環境

[卒業論文の例]

- ◎植物の3次元高感度イメージングに関する研究
- ◎農業生態系における生物多様性の維持機構の解明
- ◎マヤサンオサムシの地理的変異と生殖隔離
- ◎環境DNA分析を用いた希少生物の分布調査
- ◎CO₂固定酵素ルビスコの機能解析と光合成改良への応用研究
- ◎あらゆるウイルスと結合する人工核酸の合成
- ◎振動分光法を用いた生分解性高分子の構造と物性に関する研究
- ◎生命の起源のシミュレーション
- ◎最終氷期以降の北太平洋における海洋環境変遷の研究
- ◎地球惑星環境における氷物質の物性

環境数理科学プログラム

環境に潜む様々な現象を数理的な手法で解明し、人間と環境のよい共生関係を論理的かつ緻密にデザインするために、数理科学に関する基礎知識を身に付け、諸問題に対する新しい分析方法について学びます。

[学問領域]

数理モデル、現象解析、数理統計、計算機科学

[卒業論文の例]

- ◎連続ドラマ視聴率の解析
- ◎保険数理における信頼性理論
- ◎微分方程式モデルによる社会事象の分析
- ◎インフルエンザによる学級閉鎖の基準制定の影響
- ◎倒産企業の統計的分析
- ◎数理モデルを用いた保険料の算定
- ◎スマートデバイスに対応した数学アプリケーションの開発
- ◎チューリングマシンと計算量のクラスについて
- ◎高等学校数学科におけるICTの活用
- ◎ゲーム理論とナッシュ均衡

生活共生科学プログラム

日常生活における人と人、人と環境のよりよい共生関係をデザインするために、フィールドワーク、各種調査、科学実験の基礎的な技能を身に付け、幅広い問題を発見・立論するとともに、課題解決に向け、実践的な技術開発、環境設計、政策立案について学びます。

[学問領域]

ライフスタイル論、環境共生システム、生活空間、生活資源

[卒業論文の例]

- ◎中高年単身者の生活空間に関する研究
- ◎都市再開発における社会的批判のコントロールに関する研究
- ◎ジェンダーの視点からみた高齢期の生活空間
- ◎環境未来都市構想に関する取組の効果と課題の検証
- ◎超高齢社会の進展が自治体ごみ処理システムにおよぼす環境的影響の評価
- ◎グリーン・コンフリクトを考慮した太陽光発電所の包括的評価
- ◎兵庫県における森林資源のエネルギー利用可能量の推計
- ◎六甲山の景観保全に対する観光客の支払意思額の評価
- ◎自然型再開発リゾート施設の評価と可能性
- ◎都市緑地における生物多様性の経済価値評価

社会共生科学プログラム

文化・政治・経済・社会・地域等における様々な対立を乗り越えるために、グローバル社会における共生のあるべき姿を考えます。身近な環境からグローバルな環境に至る様々な課題を発見し、その原因と解決について学びます。国内外でのフィールド調査・文献調査を通して、実践力を身に付けます。

[学問領域]

国際関係論、途上国開発論、社会文化環境論、地域社会論、労働環境論、福祉環境論、社会環境思想論

[卒業論文の例]

- ◎オーストラリア先住民文化と創造の可能性
- ◎企業のSDGs活動—持続可能な社会に向けて企業ができること
- ◎学びにおける「欲望」について—自分の学びを見つけるために
- ◎日本の移民政策の課題と日本語教育の役割
—神戸市・東灘日本語教室を事例に
- ◎電気自動車は本当に地球に優しいのか—環境、経済を含めた総合的考察
- ◎ネットを介した仮想的なコミュニケーションが拓く可能性
- ◎日本人と定住外国人の関係性—共生概念の再検討
- ◎日本の児童文学における障害者表象
- ◎インフラ発展による開発途上国の発展—回廊開発アプローチの正当性

Department of Child Education

子ども教育学科

次世代育成を通じたグローバル共生社会の実現を目指し、グローバル社会に関わる幅広い視野を持ちながら、子どもと学校が抱える課題を多面的に認識し、実践的に解決していく能力を身に付けた初等教育教員等を養成します。この目的を踏まえ、本学科は、初等教育を構成する「学校教育学」と「乳幼児教育学」の2つのコースを設け、世界と日本の学校教育、国際文化理解教育など、グローバル共生社会の実現に向けた教育の現状と課題について理解を深めた後、コースごとの体系的な教育研究を行っていきます。

予想される進路

卒業後の進路として、小学校教員、幼稚園教員、特別支援学校教員、公務員（教育行政職）、（実務経験を経た後）教育に関わる国際機関職員、教育関連企業、大学院進学等が予想されます。

取得可能な学位：学士（学術）(Bachelor of Arts)
学士（教育学）(Bachelor of Education)

【コース選択】

学校教育学コース／乳幼児教育学コース

学びの特色

1 幅広い基礎知識を得て 方向性を選択する

1年次は、概論等の講義を通じ、未来のグローバル共生社会を創り出す子どもの教育について原理的諸側面と教科的諸側面を中心に、多角的な知見と探究方法論を修得し、基礎的な能力を身に付けます。同時に、幅広い専門科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。

2 コースごとの学修を通して、 高い専門性を身に付ける

将来の進路など目的に応じて、2つのコースから1つのコースを選択します。それぞれのコースで開講される専門科目を受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。

3 理論と実践の往還を通して、 エキスパートとしての実践力・応用力を鍛える

大学での専門科目の受講によって身に付けた高度な専門性を、附属学校園を含む国内外の学校現場での教育実習やインターンシップの経験と連関させ、初等教育教員としての実践的指導力、子どもの教育を学問的に探究するための研究能力を鍛えます。

学校教育学コース

主に教育学、教科内容・指導論、心理学の専門性に基づいて、義務教育の基盤である小学校を中心とした教育理念、制度、教育内容と方法に関する教育研究を行います。あわせて、インクルーシブ教育の観点から、障害のある子どもに対する特別支援教育に関する教育研究を行います。

[学問領域]

学校教育学、教育内容・指導論、特別支援教育学、障害児支援学

[卒業論文の例]

- ◎現代米国における教員養成機関に対する評価制度
—教員養成ア krediteーションの最新動向と課題に焦点を当てて
- ◎戦後総合学習の研究—中央教育制度検討委員会・中央教育課程検討委員会の報告書に着目して
- ◎自閉スペクトラム症児と担任教師の信頼関係の在り方について
- ◎主権者を育てる歴史の授業—小学校歴史授業「源平選挙戦」の開発を通じて
- ◎空間認識能力を育む活動について—空間図形の学習におけるICTの活用
- ◎求差型減法をつまづきの分析—1対1対応づけの難しさ、『多い』という言葉の難しさに着目して
- ◎科学技術の社会問題を取り上げた教育プログラムのための教材の開発と評価
- ◎小学校高学年ゴール型ゲームにおける作戦とゲームパフォーマンスの関係
- ◎小学校道徳教科書におけるジェンダーの描かれ方についての研究
- ◎小学校における生活綴方の「読み合い」による
- ◎子どもの自己肯定感の涵養について
- ◎日本における保護者の学校参加論の再検討—ペアレントクラシの理論と米国の動向を手がかりとして
- ◎学習科学のためのオープンエデュケーション
—NAPLeS Webinar Seriesの事例
- ◎子どもの貧困と学習支援：普遍的制度と選別的制度に着目して

乳幼児教育学コース

主に教育学、保育内容・指導論、心理学の専門性に基づき、生涯にわたる人格形成の基盤である乳幼児期を中心とした教育理念、制度、保育内容と方法に関する教育研究を行います。あわせて、幼小連携教育の観点から、小学校教育の内容と方法等に関する教育研究を行います。

[学問領域]

乳幼児教育学、保育内容・指導論、乳幼児心理学

[卒業論文の例]

- ◎乳幼児期の非認知的能力の育ちをとらえる方法に関する研究
- ◎沖縄県の保育者のワークフォースに関する研究
- ◎「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を用いた保育の評価観点の作成
- ◎科学絵本のナラティブに関する研究—「かがくのとも」を事例として
- ◎障がい描かれた絵本の分析—知的障がい・発達障がいに着目して
- ◎自称詞の使用意識の発達の变化と仲間関係
- ◎模倣を通じた学びについての研究—4歳児の生活場面の観察
- ◎偏食のある自閉スペクトラム症児に対する指導について
- ◎動物園におけるICTを利用した体験学習の評価—ヤマネコを事例にして
- ◎子どもの造形活動に対する親の関わりの変化
—美術館ワークショップの調査をもとに
- ◎日本における子ども部屋の変化
—西洋における近代的家族間の日本的授業の観点から
- ◎子どもの権利擁護のための相談・救済の取り組み
—川西市子どもの人権オンズパーソンに着目して
- ◎支援の届きにくい家庭に着目した訪問型アウトリーチ支援の展開と課題
—国内-市-町と英国の調査を踏まえて

グローバル文化学科

		1年次	2年次	3年次	4年次
教養科目		情報基礎科目(1年次) 健康・スポーツ関連科目(1年次)			
		基礎教養科目 総合教養科目 外国語科目		高度教養科目	
学部共通科目	GSP	グローバルイシュー概論 グローバルイシュー演習 GSP演習(オリエンテーション) GSP(留学期GSコース、実践型GSコース、研修型GSコース) GSP演習(リフレクション)			
	基礎・発展科目	<p>[基礎科目] 初年次セミナー 協働型リーダーシップ論 国際開発援助論(JICA) コミュニティ創成論 フィールドワーク基礎論 異文化間教育論 ソーシャルエンバワメント論 情報リテラシー演習1,2 アジア共同体論1,2</p> <p>[発展科目] グローバル共生社会論 Test Preparation Academic Skills 国際コミュニケーション演習A, B</p>	<p>[発展科目] フィールドワーク方法論 Academic Communication(英、独、仏) Academic Writing(英、独、仏) ロシア語入門1,2 スペイン語入門1,2 イタリア語入門1,2 ラテン語入門1,2</p> <p>[発展科目] Cultures and Societies in Japan A, B 日本語コミュニケーション1,2 情報発信演習1,2 プログラミング基礎演習1,2 ESD演習I1、I2、II1、II2(国際人間科学)</p>	<p>[発展科目] English Presentation Skills English for Professional Purposes World Englishes</p> <p>[発展科目] 外国語実習A, B インターンシップ実習A, B フィールドワーク実習A, B 日本語文法基礎 実践日本語基礎 日本語・日本文化基礎演習</p>	
学部専門科目	共通科目	<p>情報科学概論 地域文化概論 異文化コミュニケーション概論 現代文化システム概論 言語情報コミュニケーション概論 Oxbridge English Summer Camp 1</p>	<p>日欧比較セミナーIA、IB、IIA、IIB、IIIA、IIIB Aspects of EU Culture and Society (Lecture) A, B Aspects of EU Culture and Society (Seminar) A, B EUエキスパート人材養成プログラム特別講義 Lectures on Social Dynamics Lectures on Cultural Formations Lectures on Global Communication Oxbridge English Summer Camp 2</p>	<p>日欧比較セミナーIIIA、B Study on Global Cultures</p>	
	コア・展開科目	<p>[コア科目] 日本社会文化論 東アジア政治社会論 環大西洋文化論</p> <p>[展開科目] 地域文化論基礎演習I</p>	<p>[展開科目] 日本思想文化論、日本文化交流論 日本メディア文化論 日本歴史文化論 オセアニア社会文化論 北アジア歴史社会文化論 東南アジア社会文化論 東南アジア政治文化論 アメリカ社会論 アメリカ文化論 英米テクスト文化論 宗教文化論 ヨーロッパ社会文化論</p> <p>[展開科目] 労働環境史 地域社会共生論 地域文化論基礎演習II 地域文化論発展演習I</p>	<p>[展開科目] コミュニティと表象 メディア論 社会調査法A, B</p> <p>[展開科目] 地域文化論発展演習II グローバル文化特別演習I</p>	<p>[展開科目] グローバル文化特別演習II</p> <p>卒業研究</p>
学部専門科目	コア・展開科目	<p>[コア科目] 文化人類学 越境文化形成論 国際関係論</p> <p>[展開科目] 異文化コミュニケーション論 基礎演習I</p>	<p>[展開科目] 現代社会人類学 現代民族誌学 比較民族学 文化混交論 科学技術文明論 比較文化論 文化翻訳論 越境社会文化論 多文化政治社会論 比較政策論 比較政治社会論 平和構築論</p> <p>[展開科目] 公衆衛生学 環境経済学 地域社会共生論 異文化コミュニケーション論基礎演習II 異文化コミュニケーション論発展演習I</p>	<p>[展開科目] 社会調査法A, B</p> <p>[展開科目] 異文化コミュニケーション論発展演習II グローバル文化特別演習I</p>	<p>[展開科目] グローバル文化特別演習II</p> <p>卒業研究</p>
		<p>[コア科目] 近現代社会思想論 現代社会理論 文化政策論</p> <p>[展開科目] 現代文化システム論基礎演習I</p>	<p>[展開科目] 近現代文化言説論 近現代表象文化論 近現代経済思想論 近現代政治思想論 グローバル正義論 ジェンダー社会文化論 メディア社会文化論 現代規範論 近現代アート論 芸術文化表象論 視覚文化論 表象文化形成論 芸術文化環境論</p> <p>[展開科目] コミュニティと表象 シアトリカル・アート論 コミュニティ・ジェンダー論 公衆衛生学 環境経済学 生活空間計画論 環境思想史 労働環境史 現代文化システム論基礎演習II 現代文化システム論発展演習I</p>	<p>[展開科目] コミュニティと都市 メディア論 社会調査法A, B</p> <p>[展開科目] 現代文化システム論発展演習II グローバル文化特別演習I</p>	<p>[展開科目] グローバル文化特別演習II</p> <p>卒業研究</p>
		<p>[コア科目] 第二言語習得論 非言語コミュニケーション論 現代IT入門</p> <p>[展開科目] 心理学の基礎と歩み(心理学概論) 言語情報コミュニケーション論 基礎演習I</p>	<p>[展開科目] 言語機能論 コミュニケーション表現論 翻訳コミュニケーション論 音声コミュニケーション論 コミュニケーション構造論 コミュニケーション比較論 認知コミュニケーション論(知覚・認知心理学) ITコミュニケーションデザイン 社会システム科学 データマネージメント 統計情報処理 グローバル・イングリッシュ・ヒストリー 日本語・日本事情演習 知覚と行為(知覚・認知心理学) 生活空間計画論</p> <p>[展開科目] 言語情報コミュニケーション論基礎演習II 言語情報コミュニケーション論発展演習I</p>	<p>[展開科目] 言語情報コミュニケーション論発展演習II グローバル文化特別演習I</p>	<p>[展開科目] グローバル文化特別演習II</p> <p>卒業研究</p>

(注) 2年次後期の始めにプログラムを1つ選択します。1年次には2年次以降選択するプログラムを想定して科目を履修します。

発達コミュニティ学科

		1年次	2年次	3年次	4年次
教養科目	基礎・発展科目	情報基礎科目(1年次) 健康・スポーツ関連科目(1年次)		高度教養科目	
		基礎教養科目 総合教養科目 外国語科目			
学部共通科目	GSP	グローバルイシュー概論 GSP演習(オリエンテーション)	グローバルイシュー演習 GSP(留学期GSコース、実践型GSコース、研修型GSコース)	GSP演習(リフレクション)	
	基礎・発展科目	<p>[基礎科目] 初年次セミナー/協働型リーダーシップ論 国際開発援助論(JICA)/コミュニティ創成論 フィールドワーク基礎論/異文化間教育論 ソーシャルエンバウメント論 情報リテラシー演習1,2/アジア共同体論1,2</p> <p>[発展科目] グローバル共生社会論/ Test Preparation Academic Skills/国際コミュニケーション演習A,B</p>	<p>[発展科目] フィールドワーク方法論/ Academic Communication(英、独、仏) Academic Writing(英、独、仏)/コリア語入門1,2 スペイン語入門1,2/イタリア語入門1,2/ラテン語入門1,2</p> <p>[発展科目] Cultures and Societies in Japan A, B 日本語コミュニケーション1,2/情報発信演習1,2 プログラミング基礎演習1,2 ESD演習I1, I2, II1, II2(国際人間科学)</p>	<p>[発展科目] English Presentation Skills English for Professional Purposes World Englishes</p> <p>[発展科目] 外国語実習A, B インターンシップ実習A, B フィールドワーク実習A, B/日本語文法基礎 実践日本語基礎/日本語・日本文化基礎演習</p>	
学科専門科目	コア・展開科目	発達コミュニティ概論 地域社会学		発達コミュニティ演習1	発達コミュニティ演習2
		<p>[コア科目] 人とアート論 社会教育計画論</p>	<p>[コア科目] 障害共生教育論/コミュニティ・ジェンダー論 健康心理学(健康・医療心理学)/スポーツプロモーション論 ミュージックセラピー/身体表現論</p> <p>[展開科目] 青年心理学 家族の発達と病理1(社会・集団・家族心理学1) 家族の発達と病理2(社会・集団・家族心理学2) 加齢の社会心理学(社会・集団・家族心理学) 精神生理学 ジェンダー社会文化論 メディア社会文化論</p>	<p>[コア科目] コミュニティと音楽/メディア論</p> <p>[展開科目] 社会調査法A, B 社会教育課題研究(ボランティア学習論) 社会教育課題研究(障害共生教育論) 社会教育課題研究(リスクコミュニケーション論) 社会教育課題研究(ジェンダー問題学習論) 社会教育課題研究(自然共生地域支援論) 社会教育課題研究(子どもコミュニティ支援論) ライフコースの心理学(発達心理学) アート・ミュージックプロジェクト実践 ファッション文化論/ ESD実践論</p>	[展開科目] 心理学的援助支援 (心理実習)
		<p>[コア科目] 心理学の基礎と歩み (心理学概論) からだの構造と機能 (人体の構造と機能及び疾病) 加齢の認知心理学 (知覚・認知心理学)</p> <p>[展開科目] 発達心理学(幼・小) 心の発達と教育1 (学習・言語心理学1) 心の発達と教育2 (教育・学校心理学1)</p>	<p>[コア科目] 健康心理学(健康・医療心理学)/心理学調査法(心理学研究法) ミュージックセラピー/知覚と行為(知覚・認知心理学)</p> <p>[展開科目] 児童の発達と学習/青年心理学/社会性の発達心理学 生理心理学(神経・生理心理学)/臨床心理学(臨床心理学概論) 心理面接論(心理学的支援法)/深層心理学 家族の発達と病理1(社会・集団・家族心理学1) 家族の発達と病理2(社会・集団・家族心理学2) 心理学実験法/心理学観察法 発達アセスメント(心理的アセスメント)/心理学統計法A, B 障害児発達学(障害者・障害児心理学)/臨床発達支援学1,2 加齢の社会心理学(社会・集団・家族心理学)/精神生理学 認知コミュニケーション論(知覚・認知心理学)/ジェンダー社会文化論</p>	<p>[コア科目] 心理学研究実践A/心理学研究実践B(心理学研究法)</p> <p>[展開科目] 社会教育課題研究(ジェンダー問題学習論) 社会教育課題研究(子どもコミュニティ支援論) 心の発達と教育3(教育・学校心理学2) 初等学校教育相談 ライフコースの心理学(発達心理学) 感情・人格心理学/中等学校教育相談 心理検査法(心理的アセスメント) 投影法心理検査/臨床心理学演習(心理演習) 公認心理師の職業/福祉心理学 司法・犯罪心理学/産業・組織心理学 関係行政論/健康教育論</p>	[展開科目] 心理学的援助支援 (心理実習)
		<p>[コア科目] アクティブライフ概論 からだの構造と機能 (人体の構造と機能及び疾病) 加齢の認知心理学 (知覚・認知心理学)</p> <p>[展開科目] 心の発達と教育1 (学習・言語心理学1) 心の発達と教育2 (教育・学校心理学1) 健康運動科学</p>	<p>[コア科目] 障害共生教育論/健康心理学(健康・医療心理学)/運動心理学 スポーツプロモーション論/身体運動の文化史/生物統計学</p> <p>[展開科目] 青年心理学/社会性の発達心理学/生理心理学(神経・生理心理学) 心理学統計法A, B/身体機能の適応/加齢の健康行動科学 運動方法学/公衆衛生学/セーフティプロモーション論 身体運動のダイナミクス/加齢の社会心理学(社会・集団・家族心理学) 身体マネジメント研究/精神生理学/環境保健学/応用身体運動科学 スポーツマネジメント/トラック&フィールド実習/自然体験活動実習 スミミング&アクアティックススポーツ実習/ボールゲームズ実習 認知コミュニケーション論(知覚・認知心理学) コンテンポラリーダンス1,2</p>	<p>[コア科目] 社会調査法A, B 社会教育課題研究(障害共生教育論) 社会教育課題研究(ジェンダー問題学習論) 社会教育課題研究(子どもコミュニティ支援論) 中等学校教育相談 疫学 アクティブライフ演習 健康教育論 スポーツコミュニティ形成論 身体運動科学実験 バイオメカニクス実験 柔道実習/ジムナスティクス実習 コンテンポラリーダンス1,2</p>	卒業研究
		<p>[コア科目] 心理学の基礎と歩み (心理学概論) 音楽文化史1,2 エス/ミュージコロジー 1,2 人とアート論 文化政策論</p> <p>[展開科目] 心の発達と教育1 (学習・言語心理学1) 心の発達と教育2 (教育・学校心理学1)</p>	<p>[コア科目] 社会教育計画論/障害共生教育論/サウンドデザイン ミュージックセラピー/日本文化交流論/身体表現論</p> <p>[展開科目] 児童の発達と学習/青年心理学/社会性の発達心理学 生理心理学(神経・生理心理学)/臨床心理学(臨床心理学概論) 身体機能の適応/声の表現/シアトリカル・アート論 民族音楽演奏演習1,2/民族音楽演奏特別演習/音楽集団活動論1,2 器楽アンサンブル1,2/ミュージックセオリー&アナリシス 声楽表現演習/ピアノ演奏演習/声楽アンサンブル1,2 近現代アート論/表象文化形成論/近現代文化言説論 芸術文化表象論/都市と建築の20世紀/コンテンポラリーダンス1,2</p>	<p>[コア科目] 音楽作品研究/コミュニティと音楽</p> <p>[展開科目] 社会教育課題研究(ボランティア学習論) 社会教育課題研究(ジェンダー問題学習論) 中等学校教育相談 声楽伴奏表現演習 邦楽歌唱法 邦楽器演奏法 芸術表現演習 アート・ミュージックプロジェクト実践 ESD実践論</p>	卒業研究
		<p>[コア科目] 心理学の基礎と歩み(心理学概論) 人とアート論 文化政策論 創造の発想とプロセスA, B</p> <p>[展開科目] 心の発達と教育1(学習・言語心理学1) 心の発達と教育2(教育・学校心理学1)</p>	<p>[コア科目] 知覚と行為(知覚・認知心理学)/身体表現論 コミュニティと表象/空間造形論/絵画アート論</p> <p>[展開科目] 空間アート実践/絵画アート実践/近現代アート論 表象文化形成論/視覚文化論/近現代文化言説論 芸術文化表象論/メディア社会文化論/都市と建築の20世紀 グラフィックサイエンス/コンテンポラリーダンス1,2</p>	<p>[コア科目] コミュニティと音楽/コミュニティと都市 メディア論</p> <p>[展開科目] 社会教育課題研究(ボランティア学習論) 社会教育課題研究(ジェンダー問題学習論) 芸術表現演習 アート・ミュージックプロジェクト実践 ファッション文化論/芸術批評演習 アフォーダンス論演習/幾何デザインと視覚伝達</p>	[展開科目] 映像・メディア論 演習
					卒業研究

(注) 2年次の始めにプログラムを1つ選択します。1年次には2年次以降選択するプログラムを想定して科目を履修します。

環境共生学科

		1年次	2年次	3年次	4年次		
教養科目		情報基礎科目(1年次) 健康・スポーツ関連科目(1年次)					
		基礎教養科目 総合教養科目 外国語科目		高度教養科目			
学部共通科目	GSP	グローバルイシュー概論 グローバルイシュー演習 GSP演習(オリエンテーション) GSP(留学型GSコース、実践型GSコース、研修型GSコース)		GSP演習(リフレクション)			
	基礎・発展科目	<p>[基礎科目] 初年次セミナー 協働型リーダーシップ論 国際開発援助論(JICA) コミュニティ創成論 フィールドワーク基礎論 異文化間教育論 ソーシャルエンバワメント論 情報リテラシー演習1,2 アジア共同体論1,2</p> <p>[発展科目] グローバル共生社会論 Test Preparation Academic Skills 国際コミュニケーション演習A,B</p>	<p>[発展科目] フィールドワーク方法論 Academic Communication(英、独、仏) Academic Writing(英、独、仏) コリア語入門1,2 スペイン語入門1,2 イタリア語入門1,2 ラテン語入門1,2</p> <p>[発展科目] Cultures and Societies in Japan A,B 日本語コミュニケーション1,2 情報発信演習1,2 プログラミング基礎演習1,2 ESD演習I1、I2、II1、II2(国際人間科学)</p>	<p>[発展科目] English Presentation Skills English for Professional Purposes World Englishes</p> <p>[発展科目] 外国語実習A,B インターンシップ実習A,B フィールドワーク実習A,B 日本語文法基礎 実践日本語基礎 日本語・日本文化基礎演習</p>			
学科専門科目	共通	環境共生学概論1,2,3 地球環境学	途上国農村地域開発論 統計的問題解決法				
	コア・展開科目	<p>[共通基礎科目] 物理学入門 力学基礎1,2 電磁気学基礎1,2 連続体力学基礎 熱力学基礎 基礎無機化学1,2 基礎有機化学1,2 生物学概論A1,A2 生物学各論A1,A2 生物学各論C1,C2 基礎地学1,2 線形代数1,2,3,4 微積分1,2,3,4 数理統計1,2</p>	<p>[コア科目] 環境物理学A,B 環境物質科学A,B 環境生命科学A,B 環境地球科学A,B 数理科学基礎 数理科学入門(統計系) 数理科学入門(解析系) 計算機科学入門 数値モデリング 環境基礎科学実験A(主に地学) 環境基礎科学実験B(主に生物学) 環境基礎科学実験C(主に化学) 市民科学教育論</p> <p>環境自然科学プログラム</p>	<p>[展開科目] 宇宙環境物理学 地球環境物理学 大気環境学 生物多様性科学 生態学 環境資源植物科学 生物統計学 からだの構造と機能 (人体の構造と機能及び疾病) 公衆衛生学</p>	<p>[展開科目] 環境基礎物理学A,B 環境地球化学 地球環境変動史 生態学 環境生理学 分子生物学 環境高分子化学 環境生命化学 環境無機化学</p>	<p>[展開科目] 環境インフォマティクス 環境数値解析 多変量解析 実験計画法 野外生物学実習 環境応用科学実験A (地球環境) 環境応用科学実験B (生物環境) 環境応用科学実験C (物質環境) 環境応用科学実験D (環境物理) 環境基礎科学演習1,2 疫学</p>	<p>[展開科目] 環境物理学特別演習1 環境物理学特別演習2</p> <p>卒業研究</p>
		<p>[共通基礎科目] 物理学入門 力学基礎1,2 電磁気学基礎1,2 連続体力学基礎 熱力学基礎 基礎無機化学1,2 基礎有機化学1,2 生物学概論A1,A2 生物学各論A1,A2 生物学各論C1,C2 基礎地学1,2 線形代数1,2,3,4 微積分1,2,3,4 数理統計1,2</p>	<p>[コア科目] 数理科学基礎 数理科学入門(統計系) 数理科学入門(代数系) 数理科学入門(幾何系) 数理科学入門(解析系) 計算機科学入門 数値モデリング 環境物理学A,B 環境物質科学A,B 環境生命科学A,B 環境地球科学A,B 環境社会学 公害・環境史</p> <p>環境数理科学プログラム</p>	<p>[共通基礎科目] 量子力学基礎 相対論基礎</p> <p>[展開科目] 環境インフォマティクス 環境数値解析 生物統計学</p>	<p>[展開科目] 計算代数A,B 複雑系の幾何学 環境モデル解析A,B 多変量解析 実験計画法 かたちの数理A,B 数理科学研究A,B</p>	<p>[展開科目] 環境基礎科学演習1,2</p> <p>卒業研究</p>	
		<p>[共通基礎科目] 力学基礎1,2 熱力学基礎 基礎有機化学1,2 生物学概論A1,A2 線形代数入門1,2 微積分入門1,2 数理統計1,2 法律学 経済学 政治学 人文地理学 社会学 倫理学</p>	<p>[コア科目] 環境経済学 地域環境資源論 生活空間計画論 緑地環境論 ライフスタイル論A,B 高齢者環境論 子ども環境論 環境社会学 公害・環境史 グローバル都市地域論</p> <p>生活共生科学プログラム</p>	<p>[展開科目] 衣環境論 アパレル設計論 食環境論A,B アプライアンス環境論 スマート ライフサイエンス 環境政策論 環境システム設計論 地域景観生態論 住環境論 環境保健学 環境・健康リスク論 福祉環境システム論 地域空間システム論 地域社会共生論 身体機能の適応</p> <p>家族の発達と病理1 (社会・集団・家族心理学1) 家族の発達と病理2 (社会・集団・家族心理学2) 加齢の社会心理学 (社会・集団・家族心理学) 都市と建築の20世紀 公衆衛生学</p>	<p>[展開科目] 環境形成科学実験A,B,C,D 環境形成科学実習A,B 合意形成プロセス論 環境形成科学調査法1,2 ファッション文化論 環境形成科学演習1A,2A</p>	<p>卒業研究</p>	
<p>[共通基礎科目] 法律学 経済学 政治学 人文地理学 外国史 社会学 日本史 倫理学</p>	<p>[コア科目] 環境経済学 地域環境資源論 生活空間計画論 緑地環境論 ライフスタイル論A,B 高齢者環境論 子ども環境論 環境社会学 環境思想史 公害・環境史 グローバル開発政策論 グローバル都市地域論</p> <p>社会共生科学プログラム</p>	<p>[展開科目] 環境政策論 地域景観生態論 社会環境変動史 環境法 グローバル平和論 労働環境史 グローバル経済環境史 福祉環境システム論 地域空間システム論 社会文化環境論 地域社会共生論 地域復興政策論</p> <p>フィールドワーク実習 近現代政治思想論 近現代経済思想論 ジェンダー社会文化論 グローバル正義論</p>	<p>[展開科目] 環境形成科学演習1A,1B,1C,2A,2B,2C</p>	<p>卒業研究</p>			

(注) 2年次の始めにプログラムを1つ選択します。1年次には2年次以降選択するプログラムを想定して科目を履修します。

子ども教育学科

		1年次	2年次	3年次	4年次
教養科目		情報基礎科目(1年次) 健康・スポーツ関連科目(1年次)			
		基礎教養科目 総合教養科目 外国語科目		高度教養科目	
学部共通科目	GSP	グローバルイシュー概論 GSP演習(オリエンテーション)	グローバルイシュー演習 GSP(留学期GSコース、実践型GSコース、研修型GSコース)	GSP演習(リフレクション)	
	基礎・発展科目	<p>[基礎科目] 初年次セミナー 協働型リーダーシップ論 国際開発援助論(JICA) コミュニティ創成論 フィールドワーク基礎論 異文化間教育論 ソーシャルエンバウメント論 情報リテラシー演習1,2 アジア共同体論1,2</p> <p>[発展科目] グローバル共生社会論 Test Preparation Academic Skills 国際コミュニケーション演習A,B</p>	<p>[発展科目] フィールドワーク方法論 Academic Communication(英、独、仏) Academic Writing(英、独、仏) コリア語入門1,2 スペイン語入門1,2 イタリア語入門1,2 ラテン語入門1,2</p> <p>[発展科目] Cultures and Societies in Japan A, B 日本語コミュニケーション1,2 情報発信演習1,2 プログラミング基礎演習1,2 ESD演習I1、I2、II1、II2(国際人間科学)</p>	<p>[発展科目] English Presentation Skills English for Professional Purposes World Englishes</p> <p>[発展科目] 外国語実習A, B インターンシップ実習A, B フィールドワーク実習A, B 日本語文法基礎 実践日本語基礎 日本語・日本文化基礎演習</p>	
学科専門科目	共通	子ども教育学概論 教育原理(世界と日本の学校教育) 保育原理(世界と日本の乳幼児教育)		子ども教育学演習1,2	子ども教育学演習3,4
	コア・展開科目	<p>[コア科目] 教職論(小) 発達心理学(幼・小) 教育経営学(幼・小) 初等算数論 初等図工論 教師入門 乳幼児心理学 子どもの食と栄養</p> <p>[展開科目] 乳幼児と健康 乳幼児と環境 乳幼児と言葉 乳幼児と表現(音楽) 乳幼児と表現(造形) 乳幼児と人間関係 乳幼児と環境 乳幼児と言葉 子どもと家庭 特別支援教育入門(幼・小) 社会的養護 社会的養護内容演習 乳幼児心理学演習 子ども家庭支援論 観察実習I</p>	<p>[コア科目] 日本教育史 児童の発達と学習 教育行政学(幼・小) 初等カリキュラム論 初等国語科教育論 初等算数科教育論 初等理科教育論 初等生活科教育論 初等音楽科教育論 初等図工科教育論 初等体育科教育論 初等英語教育論 初等道德教育論 初等教育方法学 初等国語論 初等社会科論 初等理科論 初等生活科論 初等音楽論 初等家庭科論 初等体育論 初等英語論</p> <p>[展開科目] グローバル教育演習(教育制度) グローバル教育演習(教育方法学) グローバル教育演習(科学教育) 特別支援教育学 障害共生教育学 発達障害心理学(障害者・障害児心理学) 発達障害と共生社会1 発達障害と共生社会2 障害児発達学(障害者・障害児心理学) 肢体不自由者心理・生理・病理 支援教育臨床学 臨床発達支援学1,2 臨床発達支援学1,2 児童青年精神医学(精神疾患とその治療) 言語発達と教育1(学習・言語心理学2) 言語発達と教育2(学習・言語心理学3) 障害とリハビリテーション 英語科実践研究 観察実習II 学校インターンシップI</p>	<p>[コア科目] 初等社会科教育論 初等家庭科教育論 総合的な学習の指導法(小) 初等特別活動指導論 初等生徒指導論(進路指導を含む) 初等学校教育相談</p> <p>[展開科目] グローバル教育文献演習 西洋教育思想史 比較教育システム論 特別支援教育総論 知的障害の生理・病理 知的障害支援学 発達障害教育論 肢体不自由教育論 障害児支援学概論 社会認識実践研究 数理解実践研究 科学教育実践研究 初等教育事前・事後指導 初等教育実地研究 学校インターンシップII</p>	<p>[展開科目] 教育・保育実践演習(乳幼児教育) 特別支援教育実地研究 学校インターンシップIII 教職実践演習(幼・小)</p> <p>卒業研究</p>
	コース選択	<p>[コア科目] 教育行政学(幼・小) 乳幼児教育課程論 初等カリキュラム論 保育内容研究(健康I) 保育内容研究(健康II) 保育内容研究(人間関係) 保育内容研究(環境) 保育内容研究(造形表現) 保育内容研究(音楽表現) 保育内容研究(児童文化と言葉) 初等教育方法学 初等国語論 初等生活科論 初等音楽論 初等体育論</p> <p>[展開科目] グローバル教育演習(教育制度) グローバル教育演習(教育方法学) グローバル教育演習(科学教育) 発達障害心理学(障害者・障害児心理学) 発達障害と共生社会1,2 障害児発達学(障害者・障害児心理学) 社会福祉論 英語科実践研究 幼児心理学演習 観察実習II 学校インターンシップI</p>	<p>[コア科目] 乳幼児教育内容・方法論 乳幼児理解と教育相談 初等学校教育相談 子どもの保健と健康</p> <p>[展開科目] グローバル教育文献演習 西洋教育思想史 比較教育システム論 特別支援教育総論 障害児保育演習 社会認識実践研究 科学教育実践研究 初等教育事前・事後指導 初等教育実地研究 学校インターンシップII</p>	<p>[展開科目] 英語科実践研究 学校インターンシップIII 教職実践演習(幼・小)</p> <p>卒業研究</p>	

(注) 2年次の始めにコースを選択します。

グローバル文化学科

地域文化系プログラム

板倉史明 准教授

映画学

映画学の専門知識を基礎にして日本映画を研究しています。映画フィルムの保存や復元に関する活動も行っています。

伊藤友美 教授

東南アジア地域研究、タイ、現代仏教、女性

現代のタイで展開する仏教と社会運動、女性出家者、タイ華人の宗教を中心とした研究を行っています。

井上弘貴 准教授

政治理論、公共政策論、アメリカ政治思想史

19世紀末から20世紀のアメリカ合衆国の政治、社会、都市について、政治学と思想史の2つの方向から研究をおこなっています。

長志珠絵 教授

日本近現代史、文化研究、ジェンダー史

歴史学の研究者でジェンダー史研究も。主に戦前戦後の日本（ですので、植民地も含めます）で、文化的社会的事象を扱います。

小澤卓也 教授

ラテンアメリカ近現代史、

食のグローバル・ヒストリーズ

中米のナショナリズムや先住民族について研究しつつ、この地域の特産品をキーワードとした世界史の構築を目指しています。

辛島理人 准教授

国際交流、観光、開発援助など経済と文化の関係

アジア太平洋における文化交流を、日本を結節点にして、脱植民地化、移動・移民、経済発展、冷戦といった視点から考えています。

昆野伸幸 准教授

日本の思想の歴史的研究

おもに20世紀前半の時期における日本のナショナリズムと宗教（とくに神道）との関係について研究しています。

貞好康志 教授

東南アジア地域研究、人間・環境学

インドネシアなど東南アジアの歴史や文化の研究。同時に、人類の未来に日本と東南アジアの経験や智慧をうまく活かす方策の探究。

Yaroslav Shulatov 准教授

ロシア史、日本史、日露関係、国際関係史

東アジアの国際関係、特に日露関係の過去と現在、政治外交から文化・経済まで、さまざまな側面を考察して研究しています。

谷川真一 教授

社会学、現代中国研究

現代中国の政治と社会について研究しています。特に文化大革命などの政治・社会運動、政治体制の変容などに関心を持っています。

寺内直子 教授

民族音楽学、日本音楽史

日本、アジア、欧米の音楽・芸能を研究しています。国や地域を越えてダイナミックに交流、変容する文化の動態を捉えます。

西谷拓哉 教授

アメリカ文学、アメリカ映画

アメリカ文学・映画作品を中心として、合衆国の多面的な文化状況や表現様式の独自性を研究しています。

野谷啓二 教授

英米文学、キリスト教文化

「私たち（日本）と彼ら（欧米）」との文化的相違（ものの考え方、行動・表現様式）を宗教信仰を切り口に考えています。

萩原守 教授

アジア史、アジア法制史

研究テーマは清朝治下のモンゴル遊牧民の法制史です。しかし授業では、モンゴル、中国、シベリア、日本の近現代史を扱います。

異文化コミュニケーション系
プログラム

梅屋 潔 教授

社会人類学、文化人類学、民俗学、宗教学

死霊、呪詛などを中心に、望ましくない現象がなぜ起こるのかという「災因論」と、その逆の「福音論」、呪詛と祝福の民族誌が私のテーマです。

大石侑香 講師

社会人類学、北極地域研究

人間と自然のかかわりあいに関心があり、自然環境や社会経済的変化に対する人々の文化生態適応について研究しています。

岡田浩樹 教授

文化人類学、越境・多文化研究、宇宙人類学

グローバル化に伴う移民・越境と多文化化の問題、また宇宙開発技術と社会・文化の関係に関しJAXAと共同研究を進めています。

北村結花 准教授

比較文学・比較文化

「近代における古典の受容」という観点から、多彩なメディアによる日本古典文学の翻案・翻訳について研究しています。

近藤祉秋 講師

文化人類学、北米先住民研究

内陸アラスカを中心に北米先住民社会における人と動物の関係、生業活動、自然資源管理、神話を研究しています。

齋藤 剛 教授

文化人類学、中東研究

多様な宗教、民族の人々が混在する中東の一角をなすモロッコに暮らす人びとの生活、宗教、社会関係などについて研究しています。

坂井一成 教授

国際関係論、EU研究、移民・難民問題

EUと近隣諸国との関係について、地中海地域の移民・難民問題への対応を中心に研究しています。

下條尚志 准教授

歴史人類学、東南アジア地域研究、越境、民族

ベトナムを中心に、東南アジアの戦争や社会主義を経験した人々の日常的な生き残り策とローカルな秩序の形成を研究しています。

田中 祐理子 准教授

科学認識論、近現代科学史

20世紀の医学・生命科学を中心に科学の歴史を研究しつつ、「人間の認識とはなにか」という哲学の問いに取りこんでいます。

塚原東吾 教授

科学技術医学史、蘭学とEUテクノ政治学

ケイタイが無かったら、キミの生活はどうなる？ 国際政治は「核」で動いている。文科系からそこに、「直球勝負」で挑むのだ！

中村 覚 教授

国際政治、中東政治、平和・安全保障

中東を主な事例に新興・途上国地域における国際政治を研究しています。途上国に適する紛争予防の政策を考えています。

新川匠郎 講師

政治制度論、ドイツ語圏研究

ドイツ語圏を中心に、経済政策や移民難民政策など各種政策が政治制度（選挙や議会）を介して決まる過程について研究しています。

安岡正晴 教授

現代アメリカ政治、比較公共政策

米国など先進諸国の政策（人種・移民、経済、教育、福祉、医療、税制、環境エネルギー、メディア政策など）を比較研究しています。

現代文化システム系プログラム

青山 薫 教授

社会学、ジェンダー／セクシュアリティ、移住・移民、調査方法論
「男女」のような二分法を批判的に考察するという大テーマの下、性的マイノリティ、ケア・性労働、国境を越える移動を調査研究。

池上裕子 教授

1945年以後の美術、現代アート、グローバル・モダニズム
第二次世界大戦後のモダン・アートの展開を、アメリカと日本を中心に、歴史的・比較文化的な要因から研究しています。

石田圭子 准教授

美学・芸術論・表象文化論
私の研究テーマは、芸術と社会との関わり、とりわけ芸術と政治の関係について表象・思想史・歴史的観点から考察することです。

市田良彦 教授

社会思想史、フランス現代思想
おもにフランスをフィールドに、現代の哲学者や思想家が「社会」や「経済」をどのようなものと捉えてきたかを研究しています。

岩本和子 教授

フランス語圏文学、芸術文化論
フランス語圏（フランスやベルギー等）の文化芸術を中心・周縁概念、国家・民族・言語との関係、多文化共生の側面から考察します。

上野成利 教授

政治思想・社会思想史
理性と暴力、主体と権力、自由と公共性など、政治思想・社会思想史上の重要なテーマをめぐって、哲学的な考察を試みています。

小笠原 博毅 教授

カルチュラル・スタディーズ
メディアとスポーツを「スペクタクル」をキーワードに連結させ、そこに現れる憎悪や差別に対峙する文化的技術を模索しています。

岡本佳子 講師

舞台芸術学、西洋音楽史、中東欧文化研究
ハンガリーを中心とする近現代の音楽と舞台芸術について、作品分析とともに当時の文学や思想との関連から研究しています。

鹿野祐嗣 助教

フランス現代哲学、哲学史
20世紀フランスの哲学者ジル・ドゥルーズの著作の注釈的読解を基軸に据えて、哲学史や社会思想、精神分析理論の研究もしています。

工藤晴子 講師

国際社会学、移住研究、難民・強制移動研究、ジェンダー／セクシュアリティ
ひとの国際移動（特に難民・強制移動）や人道支援が、ジェンダーやセクシュアリティとどのように関わっているかを研究しています。

櫻井 徹 教授

法哲学
移民・難民、貧困、人権侵害、テロ、内戦といった現代のグローバルな課題をいかに解決するかという問題に取り組んでいます。

西澤晃彦 教授

社会学、貧困、社会的排除、都市
貧困や社会的排除が人に及ぼすものを、アイデンティティ（自己イメージ）や社会関係のありように特に注目して議論してきました。

松井裕美 准教授

近現代西洋美術史、フランス美術史
近現代フランス美術における前衛美術が、文学や科学、政治・社会と有していた関係性について、多角的に研究しています。

松家理恵 教授

イギリス文学・思想
18-19世紀のイギリス、特にロマン主義の文学・思想。主なテーマは、西欧近代における自然観の変化や共感能力としての想像力。

言語情報コミュニケーション系プログラム

石田雄樹 講師

フランス文学・思想、物語論
言語学の理論に基づいた文学作品の分析を行っています。主な関心は18世紀フランス、自己語り、幸福、翻訳です。

井原 駿 助教

言語学、形式意味論、語用論
自然言語における「意味」に関して、（形式）意味論・語用論の観点から研究を行なっています。

大月一弘 教授

インターネットやICT利用方法の研究
インターネットやICTの効率的な利用方法の検討、教育分野や様々な分野へのICTシステムの開発を研究しています。

康 敏 教授

情報科学、教育学
情報通信技術の情報教育および外国語教育への応用に関してコミュニケーションの視点から研究・開発を行っています。

北田 亮 准教授

認知神経科学・心理物理学
外界を認識するところの仕組みを、心理学や生理学の手法を組み合わせることで調べます。

清光英成 准教授

ソーシャル・コンピューティング、データ管理、教育情報システム、社会情報システム
様々なデータを有効に利活用するための情報資料構成ならびにデータ管理、ソーシャル・コンピューティングの肯定的評価と社会還元。

Cynthia Quinn 准教授

応用言語学
応用言語学（特にL2ライティングにおけるコーパスを用いた参照）、L1とL2による作文の教授法、ジャンル分析、質的研究方法。

小松原 哲太 講師

認知言語学、レトリック
意味の柔軟性を生かしたことばのレトリックに興味があり、認知言語学のアプローチから、比喩などの表現法を研究しています。

巽 智子 講師

第一言語習得、心理言語学、言語学
私たちはどのように言語を身に付けるのでしょうか？心理言語学のアプローチで、文法知識の習得のメカニズムを探っています。

田中順子 教授

第二言語習得理論、応用言語学
第二言語習得理論は、人が母語を習得した後で母語以外の言語を習得する際のプロセスやメカニズムについて研究する分野です。

西田健志 准教授

コミュニケーションのユニバーサルデザイン
異なる文化や性格を有する世界中の多様な人々が気持ちよく共存できる、ITを応用したコミュニケーション環境づくりを目指します。

林 良子 教授

音声学、言語学、異文化コミュニケーション
人間のことば（母語・外国語）の音声について、心理言語学、外国語教育、脳科学、言語障害学などの観点から分析します。

藤濤文子 教授

翻訳理論
翻訳を異文化間のコミュニケーションとして捉えて、読者や媒体等の要因によって文化差がどう表れるかを考えます。

松本絵理子 教授

認知心理学、認知神経科学
人間がどのようにして自分を取り巻く世界を認識して行動しているのかを、認知や注意を手がかりに研究しています。

南本 徹 助教

言語学、歴史言語学、印欧語研究、古代ギリシア語研究
研究主に古代ギリシア語（特に方言）の研究をしています。その裏で「人間の言語はどれくらい多様であり得るのか」を考えています。

村尾 元 教授

社会システム科学、機械学習、データサイエンス
機械学習や人工知能の技術を利用して、少数の個人から社会や国際関係までの様々な集団における現象やダイナミクスを分析します。

発達コミュニティ学科

社会エンパワメントプログラム

稲原美苗 准教授

ジェンダー理論、現象学、臨床哲学

ジェンダー理論、現象学、臨床哲学を用いて、社会に潜む特権性や自明性を疑い、マイノリティの問題について多角的に探究します。

喜屋武 享 助教

多文化・子ども支援論、ヘルスポモーション

子どもの学力・体力・健康の関係に注目しながら、地域・経済・文化によって異なる子どもの育ちについて研究しています。

清野未恵子 准教授

自然共生社会、野生動物管理、ESD

農山村地域の人と野生動物の共存を目指した研究実践を軸とし、持続可能な社会づくりのための人材育成に関する研究をしています。

津田英二 教授

生涯学習論、障害共生支援論

障害に関する社会的課題を切り口として、インクルーシブな社会に向かう人々の学びの方法や過程を追究する実践的研究を行っています。

松岡広路 教授

生涯学習論、福祉教育・ボランティア学習論

ESD推進の方法論(原理・システム)を、社会教育及び福祉教育・ボランティア学習の観点から考究しています。

村山留美子 准教授 ※

環境保健学、環境リスク学

環境からもたらされるリスクと人の健康との間にある問題に、実験や調査手法を用いて特に社会的な側面からアプローチしています。

大田美佐子 准教授 ※

音楽文化史、音楽美学

文化史的、あるいは越境的な視点から、今現在の文化との関わりを踏まえて、舞台表現や音楽文化の歴史を研究しています。

岡崎香奈 准教授 ※

音楽療法、即興演奏

即興的音楽療法の実践を元に、医療、福祉、教育現場などにおける音楽の臨床的活用と「人間の音楽行為」について研究しています。

平芳裕子 准教授 ※

表象文化論、ファッション文化論

イメージやことばとして表されるファッションの諸問題を、芸術・文化・産業・社会・生活との関わりから考察しています。

吉田圭吾 教授 ※

臨床心理学、スクールカウンセリング

中等教育学校におけるスクールカウンセリング、リストカットや盗み・暴力への対処法及び自死遺族相談について研究しています。

※他プログラムとの兼任

心の探究プログラム

相澤直樹 准教授

臨床心理学、臨床心理検査(投影法)

青年期の対人恐怖傾向と自己愛傾向、ならびにロールシャッハ検査法を中心とする心理検査法(投影法)について研究しています。

安達友紀 助教

臨床心理学、慢性痛

臨床心理学の立場から慢性痛をもつ人のより良い理解と支援について研究しています。集学的治療、認知行動療法、催眠等がテーマです。

伊藤俊樹 准教授

臨床心理学、芸術療法、消費者の深層心理

心理療法におけるイメージの変化、ロールシャッハテストを用いた芸術家の研究、消費者の深層心理の研究を行っています。

加藤佳子 教授

健康心理学、健康教育

心の健康に関する人の行動を探り、健康行動の獲得に関連する要因について解明し、well-beingの向上を目指しています。

河崎佳子 教授

臨床心理学、発達臨床心理学

聴覚障害児の心理発達と家族支援に関して実践研究を重ねてきました。また、被虐待児童への心理的ケアについて取り組んでいます。

齊藤誠一 准教授

生涯発達心理学、思春期心理学、災害心理学

思春期の身体発達・性的成熟が当の青年及び親・友人など周囲の人間に与える心理的影響に関して研究しています。

坂本美紀 教授

教育心理学

児童の協調的な学びのプロセスとその支援に関心があり、科学的思考や科学的リテラシーを育成する授業の開発とその評価に取り組んでいます。

谷 冬彦 准教授

人格心理学

青年期におけるアイデンティティ(自我同一性)の研究を中心として、広く自己や人格に関する実証的研究をしています。

鳥居深雪 教授

発達障害臨床学

発達障害などの特別なニーズのある子どもへの包括的支援について、心理、教育、福祉、医学等、学際的に研究しています。

林 創 准教授

発達心理学、教育心理学

幼児期から児童期を中心とした認知発達に関心があり、とくに他者の心の理解と関連して、社会性などの発達に関する研究をしています。

古谷真樹 准教授

睡眠心理学、生理心理学、健康心理学

心身健康の維持・増進を図るために、睡眠改善に関する基礎的研究と教育現場や地域における実践的研究を行っています。

山根隆宏 准教授

発達臨床心理学、発達障害児家族支援

発達障害における情動・社会性の支援、家族の心理や養育支援について、療育や地域の場で実証的かつ実践的に研究をしています。

吉田圭吾 教授

臨床心理学、スクールカウンセリング

中等教育学校におけるスクールカウンセリング、リストカットや盗み・暴力への対処法及び自死遺族相談について研究しています。

アクティブライフプログラム

秋元 忍 准教授

体育・スポーツ史

19世紀末から20世紀初頭の英国を主たる研究対象として、近代社会におけるスポーツ文化の特質を、歴史学の方法により解明します。

石原 暢 助教

応用身体運動科学

子どもの運動・スポーツに伴う体力向上や体格の変化が、認知機能と学力に与える効果について研究をしています。

岡田修一 教授

高齢の身体運動科学

高齢者の立位バランス能力の多角的な分析・評価、及びその知見に基づいた転倒予防法の開発と効果判定に関する研究を行っています。

片桐恵子 教授

社会心理学、社会老年学

超高齢社会での高齢者の活躍、人間関係、コミュニケーションを中心に、社会心理学的な関心から学際的な研究を行っています。

木村哲也 准教授

身体運動システム論

運動生理学やバイオメカニクスなどの手法から、身体運動の制御メカニズムを明らかにする研究を行っています。

近藤徳彦 教授

応用生理学、運動生理学、環境生理学

物理的な外部環境の変化や運動に対するヒトの呼吸・循環・体温調節機構の適応を、生理学的観点から研究を行っています。

佐藤幸治 准教授

運動生理・生化学

運動やサプリメントによる1型・2型糖尿病の新規予防・治療法の開発及び女性アスリートに対する基礎的研究を行なっています。

高田義弘 准教授

運動生理学(身体コンディショニング)

競技力向上・障害予防のためのトレーニングと運動による身体コンディションやパフォーマンスへの影響について研究しています。

ミュージックコミュニケーション プログラム

高見和至 教授

運動心理学

「運動習慣の心理的プロセス」という、人が運動やスポーツを始める行動の発現から定着、習慣化に至る心理を探究しています。

長ヶ原 誠 教授

スポーツ振興論、国際スポーツ文化論

国内外のスポーツプロモーションに関する実践研究を通じて、活動的なライフスタイルと地域活性化の支援方法を探究しています。

中村晴信 教授

公衆衛生学、行動医学、生理人類学

生活習慣と疾病予防・健康増進との関係を、体格・体組成や食行動に着目し、心理・生理・行動面から総合的に研究しています。

原田和弘 准教授

老年行動学、健康スポーツ論

身体活動・運動を通じた健康づくりの実現に貢献することを目指し、高齢者の身体活動・運動習慣の形成について研究しています。

前田正登 教授

スポーツ技術論、スポーツバイオメカニクス、

スポーツ工学

スポーツの合理的な動作と技術の習得過程に関する研究、及び、選手の技術レベルに適合するスポーツ用具の研究を行っています。

増本康平 准教授

認知心理学、高齢者心理学

世界で進展する高齢社会の問題解決を目指し、加齢が認知、感情、意思決定に及ぼす影響について研究を実施しています。

村山留美子 准教授 ※

環境保健学、環境リスク学

環境からもたらされるリスクと人の健康との間にある問題に、実験や調査手法を用いて特に社会的な側面からアプローチしています。

※他プログラムとの兼任

大田美佐子 准教授

音楽文化史、音楽美学

文化史的、あるいは越境的な視点から、今現在の文化との関わりを踏まえて、舞台表現や音楽文化の歴史を研究しています。

岡崎香奈 准教授

音楽療法、即興演奏

即興的音楽療法の実践を元に、医療、福祉、教育現場などにおける音楽の臨床的活用と「人間の音楽行為」について研究しています。

谷 正人 准教授

民族音楽学、イラン伝統音楽

イラン音楽を題材に、即興・オリジナリティ概念を、またサントゥール演奏を通して、音楽演奏に伴う心身の問題を研究しています。

津田英二 教授 ※

生涯学習論、障害共生支援論

障害に関する社会的課題を切り口として、インクルーシブな社会に向かう人々の学びの方法や過程を追う実践的研究を行っています。

田畑暁生 教授 ※

社会情報学、映像論

新しいメディアが次々と登場する「情報社会」で発生する問題や、メディアをどう利用すべきなのかといった事柄を研究しています。

野中哲士 教授 ※

認知科学、生態心理学

わがが見せる独特の秩序と、それがかみあう環境の性質から、人の活動が周囲の環境に参加していく発達のプロセスを調べています。

※他プログラムとの兼任

アートコミュニケーション プログラム

梅宮弘光 教授

近代建築史

近代建築史、都市史。日本の近・現代に、人びとが建物や街についてどんなことを考え、何をつくってきたのかを探っています。

岡野真裕 助教

認知科学、パフォーマンス科学

わざの修得・熟達に重要なこととは何か。心・身体・環境の相互作用という切り口から、実験やシミュレーションで調べています。

岸本吉弘 教授

絵画の創作と研究

近代以降の絵画表現を視覚造形的な視点より分析し、それらに関係対称化される「日本」という存在を見つめています。

関 典子 准教授

舞踊学、コンテンポラリーダンスの

創作と研究

舞踊は身体や動きという儂いものを媒体とする芸術です。その現在性にこだわり、表現・研究活動の両面から探究しています。

田畑暁生 教授

社会情報学、映像論

新しいメディアが次々と登場する「情報社会」で発生する問題や、メディアをどう利用すべきなのかといった事柄を研究しています。

野中哲士 教授

認知科学、生態心理学

わがが見せる独特の秩序と、それがかみあう環境の性質から、人の活動が周囲の環境に参加していく発達のプロセスを調べています。

平芳裕子 准教授

表象文化論、ファッション文化論

イメージやことばとして表されるファッションの諸問題を、芸術・文化・産業・社会・生活との関わりから考察しています。

環境共生学科

環境自然科学プログラム

青木茂樹 教授

素粒子・宇宙線物理学

ニュートリノ振動に関する実験や成層圏で宇宙から飛来するガンマ線を観測する気球実験など宇宙の成り立ちに関わる研究をしています。

蘆田弘樹 准教授

光合成科学、生化学、分子生物学、生物工学

植物、藻類、微生物の光合成メカニズムを遺伝子・タンパク質レベルで解明し、光合成的バイオ燃料・物質生産へ応用する研究を行っています。

伊藤真之 教授

宇宙物理学、科学教育

人工衛星等による観測に基づく宇宙の研究や、科学技術領域における市民のエンパワーメントに関する実践研究等を行っています。

丑丸敦史 教授

植物生態学、生物多様性科学

花の進化や送粉ネットワークの構造、農業生態系や都市生態系における生物多様性の維持メカニズムについて研究しています。

江原靖人 准教授

生物有機化学

生物の優れた能力を利用した、新規機能性物質の創製、さらに、それらの物質を組み合わせた人工細胞、人工生命の構築を行っています。

大串健一 教授

地球環境、環境地学

地球環境変動のメカニズム解明に向けた古環境研究を行っています。

近江戸 伸子 教授

環境資源植物科学

環境資源植物を対象に新機能の開発、遺伝特性、環境適応についてのゲノム・染色体・遺伝子研究を行っています。

窪田 薫 助教

古気候・古海洋学、炭素循環

海洋生物の殻や骨格に保存される微量元素や安定/放射性同位体から過去の情報を引き出して、気候変動・海洋環境・炭素循環を研究しています。

佐藤春実 教授

高分子化学、高分子振動分光学

環境にやさしい生分解性高分子の構造と物性について、主に振動分光法とX線回折法を用いて研究を行っています。

高見泰興 准教授

進化生態学

昆虫の進化、多様化のメカニズムについて、野外調査、行動実験、形態解析、DNA解析などを組み合わせて研究しています。

田中成典 教授

計算生物学、理論生命科学

タンパク質や核酸等の分子シミュレーションやミクロな原子レベルから計算機上で構築する理論生命科学について研究しています。

谷 篤史 准教授

地球惑星科学、物理化学、物性物理学

物質の性質や光・放射線による物質の変化を分光学を用いて調べることにより、地球や惑星の環境を理解する研究をすすめています。

源 利文 准教授

環境生理学、水域生態学、感染症生態学

環境DNAなどを用いて生物の分布、行動、生理を調べています。その応用として感染症の生態学にも取り組んでいます。

環境数理科学プログラム

稲葉太一 准教授

数理統計学、応用統計学、データ解析

統計手法は、適用分野によって異なる側面があります。医学統計の分野における多重比較法の適用範囲を広げる事を研究しています。

Emerson Gaw Escobar 助教

位相的データ解析、表現論

データの「形」に着目し、遺伝子発現や企業の技術開発といった複雑な現象の構造を解明する位相的データ解析を研究しています。

桑村雅隆 教授

応用解析学

物理学、化学、生物学などに現れる非線形微分方程式を分岐理論や力学系理論とコンピュータシミュレーションを利用して調べています。

阪本雄二 准教授

数理統計学

株価の変動のような時々刻々とランダムに変化する現象について、そのメカニズムを解明するデータ解析法を研究しています。

長坂耕作 准教授

計算機代数、計算機科学

パソコンで代数計算（因数分解や方程式の求解等）を効率的に行う方法、誤差を含む場合や他分野への展開について研究しています。

宮田任寿 教授

幾何学的トポロジー

Shape理論（局所的に複雑な空間への幾何学的なアプローチの方法）、距離空間の幾何学性質（次元など）について研究しています。

生活共生科学プログラム

井上真理 教授

衣環境学、感性工学

グローバルな視点で衣生活の環境への影響を考慮し、人の感覚を主体とした繊維製品の材料設計を提案する研究を行っています。

大野朋子 准教授

緑地環境学、造園学

人間生活と植物利用について探求することで地域固有の景観形成と創造、都市緑地環境の向上に関わる研究をしています。

佐藤真行 教授

環境経済学

環境や生態系の破壊を引き起こす現代の経済システムの問題と、持続可能な発展という課題について研究しています。

田畑智博 准教授

環境システム工学（土木工学）

私達の生活や経済活動が環境にどのような影響を与えているかを体系的に解析し、持続可能な社会のあり方を提案しています。

平山洋介 教授

生活空間計画

住居からコミュニティ、都市にいたる生活空間をどのように構想すればよいのか、という問題を理論と実証の双方から考えています。

福田博也 准教授

生体電子計測、ヒューマンエレクトロニクス

人や植物の生体電位を計測することにより、人と環境に優しい技術・物としての「ヒューマンエレクトロニクス」について研究しています。

村山留美子 准教授

環境保健学、環境リスク学

環境からもたらされるリスクと人の健康との間にある問題に、実験や調査手法を用いて特に社会的な側面からアプローチしています。

湯浅正洋 助教

食環境科学

未利用資源の食品としての有用性評価と調理・加工・利用法の提案や、原理に基づいた新しい料理の開発に取り組んでいます。

子ども教育学科

社会共生科学プログラム

浅野慎一 教授

社会文化環境論、社会学

国境を越えて移動する人々を対象として、歴史に翻弄されながらも、新たな歴史を創り出す諸個人の生活や行為について研究しています。

井口克郎 准教授

社会保障、福祉国家、災害被災者の生活問題

社会保障制度を必要とする人々とそれになう専門職ら双方の人権が保障される社会保障制度のあり方について研究しています。

岩佐卓也 准教授

社会政策

労働をめぐるルールとそれを形成する労使関係がどのように変容しているのか、日本とドイツを主な対象に研究しています。

太田和宏 教授

途上国政治経済

グローバル社会の抱える諸問題を発展途上に焦点を当てて研究しています。特に開発政策と政治構造のあり方について検討しています。

澤 宗則 教授

人文地理学、地域社会論、移民社会論

日本の地域社会の変容と問題、移民社会の形成と問題、南アジアの開発について人文地理学の視点から研究を行います。

橋本直人 准教授

社会思想、社会学史

現代社会の根底にある考え方を探るために、社会理論の歴史を研究しています。並行して、思想の計量的研究も進めています。

原 将也 助教

地域研究、環境地理学、生業研究

おもにアフリカと日本の農村を対象に社会、経済、政治、自然環境の変化に対応する人々の暮らしを住民の視点から研究しています。

赤木和重 准教授

発達障害心理学

自閉症児における自己と社会性に注目して研究しています。特に教示行為の発達と障害について、実証的な研究を行っています。

稲垣成哲 教授

科学教育

科学教育におけるテクノロジーを利用した学習支援のための理論、方法、評価及び実践デザインについて研究しています。

岡部恭幸 教授

数理認識論、数学教育

算数・数学の教材や授業を通して獲得される数理認識についての研究とその知見に基づく教育内容や方法の開発に取り組んでいます。

川地亜弥子 准教授

教育方法学

人間の発達を助成する意図的な営みとして教育をとらえ、研究しています。特に子どもの生活と言語表現の指導に注目しています。

北野幸子 准教授

乳幼児教育学、保育学

乳幼児の教育内容や方法、保育者の専門性、その確立や向上を図るシステム（専門組織の活動や政策）について研究しています。

木下孝司 教授

発達心理学

乳幼児期における自己と「心の理解」の発達を中心に、教示行為の発達や、障害をもつ乳幼児の発達保障について研究しています。

國土将平 教授

身体発育発達、保健体育科教育、健康・スポーツ測定

子どもの身体の発達や健康、体力、運動能力・動作の発達を理解し、それらに影響を与える教育や生活環境との関係を探っています。

勅使河原 君江 准教授

美術・造形教育

美術作家が取り組んだ美術・造形教育についての理論研究と対話型美術鑑賞教育についての実践研究の両面から研究しています。

鳥居深雪 教授

発達障害臨床学

発達障害などの特別なニーズのある子どもへの包括的支援について、心理、教育、福祉、医学等、学際的に研究しています。

中谷奈津子 准教授

保育学、家族関係学

認定こども園等における子育て支援の研究をしています。子どもの最善の利益と家族の幸せに寄与する保育者の役割を考えています。

長谷川 諒 特命講師

音楽教育学、音楽教育哲学

サウンドペインティングと呼ばれる即興演奏に注目し、既成の美の基準に囚われずに音楽することの意義について研究しています。

目黒 強 准教授

児童文学、国語教育

近代日本における児童文学という文学場の成立過程の検討を中心に、歴史社会学的観点から児童文学の研究に取り組んでいます。

山口悦司 准教授

科学教育

人々の科学の学習をイノベティブに支援するための学習環境デザインについて理論的・実践的に研究しています。

山下晃一 准教授

教育制度論、教育経営学

代学校組織が直面する課題について、地域との矛盾的關係と、教員の困難（特にベテランの「悲哀」）の2点から研究しています。

山根隆宏 准教授

発達臨床心理学、発達障害児家族支援

発達障害における情動・社会性の支援、家族の心理や養育支援について、療育や地域の場で実証的かつ実践的に研究をしています。

吉永 潤 教授

社会認識教育論

社会認識とは何か。それは、つきつめれば、人間がどうすれば共存しうるかという問いへの各自の答えの構築だと考えています。

渡邊隆信 教授

西洋教育史、教育哲学

20世紀初頭ドイツの「新教育」と呼ばれる教育改革の思想と実践について研究しています。日独の教師教育改革も研究対象です。



交換留学生の受け入れ

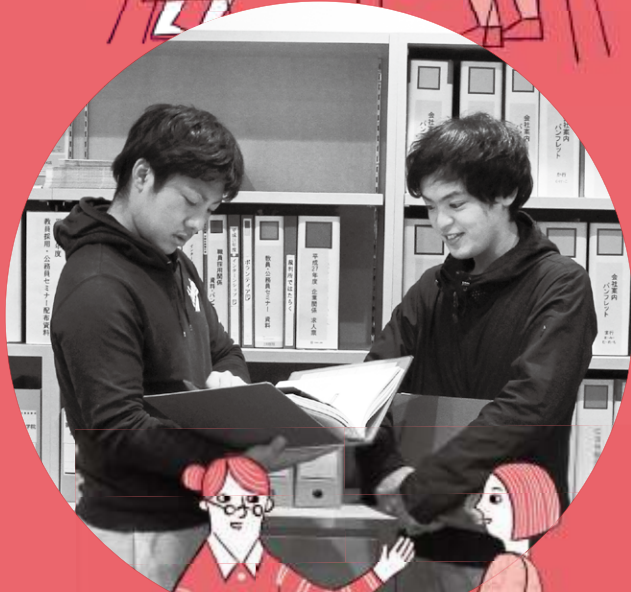
国際人間科学部生は、33か国の91協定校に交換留学が可能です。国際人間科学部では、これらの協定校から、年間約80名の交換留学生を受け入れています。本学部キャンパスにおいて、留学生と共に学びながら、様々な異文化に触れることができます。また、本学部では在学生によるチューター組織があり、留学生の来日時の諸手続き、学修、日常生活などのサポートを行っています。留学生とのパーティーや淡路島ショートトリップなどの行事や、ハイキング、花見、紅葉狩り、六甲祭出店など様々な自主イベントの企画・運営も行います。これらの交流活動を通して広い世界を知り、体験し、飛躍する力を身に付けることができます。

神戸大学 EUエキスパート人材養成プログラム (KUPES)

EUエキスパート人材養成プログラム (KUPES) は、国際人間科学部を含む4学部と3研究科の学生が、EU (欧州連合) に関してそれぞれの専門分野と学際的観点から多面的かつ体系的に学べるように、神戸大学が開発した学位プログラムです。学部2年生から博士前期 (修士) 課程まで一貫したカリキュラムを提供し、EUの社会文化・法・政治・経済的側面について専門的かつ分野横断的に研究する能力や高度な語学力を段階的に習得できます。



国・地域		教育研究機関
中国	China	Beijing Foreign Studies University, Beijing Normal University, East China Normal University, Minzu University of China, Nanjing University, Renmin University of China, Shanghai Jiao Tong University, The University of Hong Kong, Tsinghua University, Wuhan University
インドネシア	Indonesia	Gadjah Mada University
韓国	Korea	Chung-ang University, Jeju National University, Pusan National University, Korea Nazarene University, Seoul National University
モンゴル	Mongolia	National University of Mongolia
フィリピン	Philippines	Ateneo de Manila University, San Beda College
シンガポール	Singapore	Nanyang Technological University
台湾	Taiwan	National Chengchi University, National Taiwan University, National Cheng Kung University
タイ	Thailand	Thammasat University, Kasetsart University
ベトナム	Vietnam	Vietnam National University, Ho Chi Minh City University of Social Sciences and Humanities
オーストラリア	Australia	Curtin University, The University of Queensland, The University of Western Australia, University of Wollongong, The University of New South Wales
カナダ	Canada	Huron University College, University of Ottawa
アメリカ合衆国	United States	Queens College of The City University of New York, The University of Tennessee at Knoxville, University of Georgia, Utah State University, Georgia Institute of Technology
ブラジル	Brasil	University of Brasilia
オーストリア	Austria	FH JOANNEUM University of Applied Sciences, University of Graz
ベルギー	Belgium	Ghent University, Katholieke Universiteit Leuven, Saint-Louis University, Vrije Universiteit Brussel, Université Libre de Bruxelles (ULB)
ブルガリア	Bulgaria	Sofia University St.Kliment Ohridski
チェコ	Czech	Charles University
デンマーク	Denmark	Aarhus University
フィンランド	Finland	University of Helsinki
フランス	France	Université de Lille, Université de Rennes 1, Université Grenoble Alpes, Université Paris 2 Panthéon-Assas, Université de Paris, Université Paris Nanterre, L'Université d'Aix-Marseille
ドイツ	Germany	Free University of Berlin, Kiel University, Martin Luther University Halle-Wittenberg, Trier University, University of Hamburg, Leipzig University, Technical University of Dresden, Technical University of Munich, Technical University of Darmstadt
ハンガリー	Hungary	Eotvos Lorand University
イタリア	Italy	Ca' Foscari University of Venice, Università degli Studi di Napoli "L'Orientale" UNIOR, Università di Bologna Campus di Forlì, Università di Bologna
リトアニア	Lithuania	Vilnius Gediminas Technical University
オランダ	Netherland	Leiden University
ノルウェー	Norway	University of Bergen
ポーランド	Poland	Jagiellonian University, Nicolaus Copernicus University in Toruń, University of Warsaw
ルーマニア	Romania	Babes-Bolyai University
ロシア	Russia	Saint-Petersburg State University, Ural Federal University
スロバキア	Slovakia	Comenius University
スペイン	Spain	Autonomous University of Barcelona, University of Barcelona, Pompeu Fabra University
スイス	Switzerland	University of Basel
英国	United Kingdom	School of Oriental and African Studies (SOAS) University of London, The University of Manchester, The University of Sheffield, University of Birmingham, University of Essex, University of Kent



キャリア支援

国際人間科学部では、所属する学生一人ひとりのキャリア形成を積極的に行っていきます。

1 充実した バックアップ体制

国際人間科学部の鶴甲第1キャンパス、鶴甲第2キャンパス両方に、キャリア形成を支援するキャリアサポートセンターをそれぞれ設置しております。学生が自らの専門性をどのように社会に生かしていくかを考え、そのために必要な学びや行動を支援します。さらに、鶴甲第1キャンパスには、神戸大学全学生を支援対象としたキャリアセンターがおかれ、こちらにも利用することができます。

2 各種セミナー、 ガイダンスの開催

さまざまな就職活動支援セミナー（就活スケジュール、エントリーシート作成、業界・企業・仕事研究、グループディスカッション練習、面接対策など）、教員採用試験対策講座、各自治体教育委員会からの説明会、公務員試験対策講座（心理・福祉系など）、キャリア講座などを開催しています。さらに、OBOG訪問の仲介や内定獲得者との面談のアレンジを行っています。

3 就職、大学院進学、進路、 キャリアに関する個別相談

キャリアアドバイザーが就職活動、進路・キャリア形成全般に関する支援を、個別面談という形で行っていきます。具体的には、就職活動全般、自己分析支援、業界・企業・仕事研究支援、エントリーシート作成支援、論作文フィードバック、模擬面接、大学院進学・キャリアなどに関する相談に対応しています。



学生生活支援

充実した学生生活をサポートするために様々な制度を用意しています。詳細については、神戸大学ウェブサイトの「教育・学生生活」(<http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife>)をご覧ください。



奨学金

神戸大学には、独立行政法人日本学生支援機構、民間奨学団体・地方公共団体及び神戸大学独自の奨学金などの多様な奨学金制度があります各奨学金には、卒業後、返還義務のある「貸与」と返還義務のない「給付」とがあります。また、奨学金制度以外に、入学料免除、授業料免除（全額免除・半額免除）の制度があります。

学生寮

神戸大学では、修学に適する良好な環境を提供するため、学生寮を設置しています。学生寮は、男子学生用に「住吉寮」「住吉国際学生宿舎」「国維寮」「白鷗寮」、女子学生用に「女子寮」「住吉国際学生宿舎」「国維寮」「白鷗寮」があります。また、日本人学生と留学生の混在型となっており、国際的な交流ができることもメリットです。

健康

保健管理センターにおいて、健康診断を実施し、心身の健康に関するあらゆる相談を受け付けています。「からだの健康相談」では医師が、健康診断の結果や日常の健康に関する様々な相談を受け付ける他、学内における救急処置に対応しています。また、「こころの健康相談」ではカウンセラー及び医師が、様々な悩みや心配、心身の状態について相談を受けています。

募集人員、取得可能な資格免許、沿革

Admissions, Available licenses, History

2022年度学生募集人員

学科	入学定員	一般選抜		総合型選抜		学校推薦型 選抜	社会人 特別選抜	私費外国人留学生 特別選抜
		前期日程	後期日程		「志」特別選抜			
グローバル文化学科	140名	95名	35名	—	—	10名	—	若干名
発達コミュニティ学科	100名	54名	10名	スポーツ科学受験 [表現領域受験] 音楽受験 美術受験 身体表現受験	12名 12名 8名 4名	—	若干名	若干名
環境共生学科	80名	文化系 23名 理科系 30名	文化系 8名 理科系 9名	理数系科目受験	3名	7名	—	若干名
子ども教育学科	50名	39名	11名	—	—	—	若干名	若干名

取得可能な資格免許

学科	取得可能な資格	取得可能な免許
グローバル文化学科	学芸員	中学校教諭一種（英語） 高等学校教諭一種（英語）
発達コミュニティ学科	学芸員 社会教育主事 社会福祉主事任用資格 公認心理師受験資格（注1）	中学校教諭一種（保健体育、音楽、美術） 高等学校教諭一種（保健体育、音楽、美術）
環境共生学科	学芸員 社会教育主事 社会福祉主事任用資格	中学校教諭一種（理科、数学、家庭、社会） 高等学校教諭一種（理科、数学、家庭、地理歴史、公民）
子ども教育学科	学芸員 社会教育主事 社会福祉主事任用資格	幼稚園教諭一種 小学校教諭一種 特別支援学校教諭一種

（注1）「心の探究プログラム」を選択する学生が主。受験資格取得には、卒業後に大学院で公認心理師科目を修得するか、一定期間の実務経験が必要です。

沿革

国際文化学部・国際文化学研究科

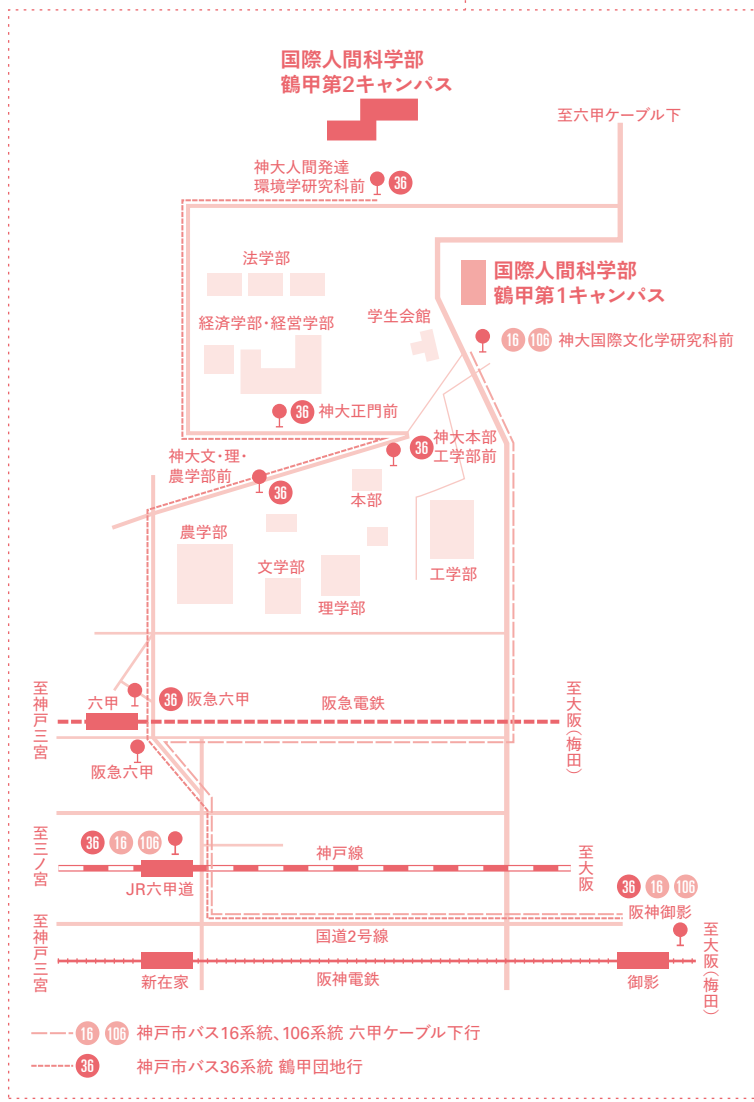
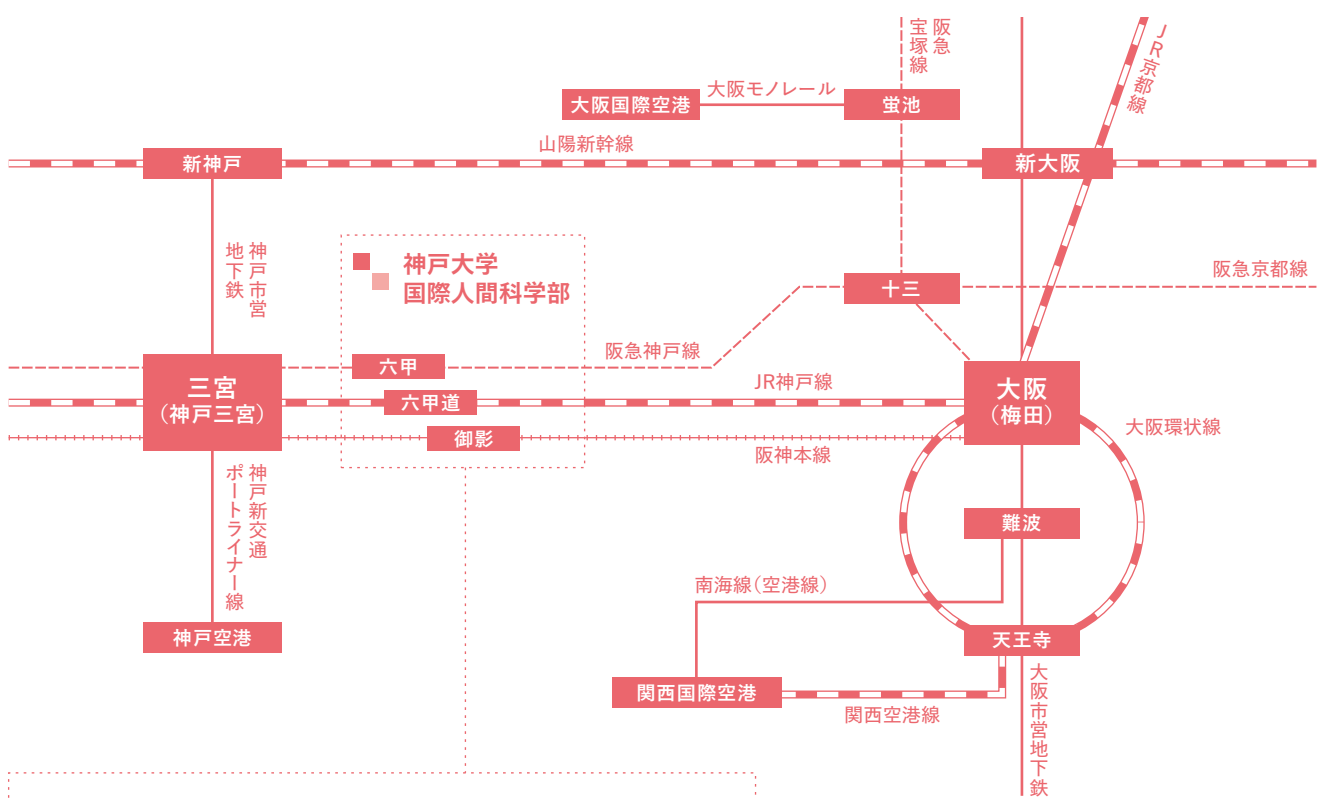
1923年（大正12年）	官立姫路高等学校設立
1949年（昭和24年）	神戸教養課程設置
1963年（昭和38年）	神戸大学教養部設置
1992年（平成4年）	神戸大学教養部を改組し、 神戸大学国際文化学部設置
1997年（平成9年）	神戸大学大学院教育学研究科を改組し、 神戸大学大学院総合人間科学研究科 修士課程設置
1999年（平成11年）	神戸大学大学院総合人間科学研究科 博士課程設置
2005年（平成17年）	神戸大学国際文化学部改組
2007年（平成19年）	神戸大学大学院総合人間科学研究科を 改組し、神戸大学大学院国際文化学 研究科設置

発達科学部・人間発達環境学研究科

1874年（明治7年）	兵庫県師範伝習所設置
1949年（昭和24年）	兵庫師範学校と兵庫青年師範学校を統合し、 神戸大学教育学部設置
1981年（昭和56年）	神戸大学大学院教育学研究科修士課程設置
1992年（平成4年）	神戸大学教育学部を改組し、 神戸大学発達科学部設置
1997年（平成9年）	神戸大学大学院教育学研究科を改組し、 神戸大学大学院総合人間科学研究科 修士課程設置
1999年（平成11年）	神戸大学大学院総合人間科学研究科 博士課程設置
2005年（平成17年）	神戸大学発達科学部改組
2007年（平成19年）	神戸大学大学院総合人間科学研究科を 改組し、神戸大学大学院 人間発達環境学研究科設置

国際人間科学部

2017年（平成29年）	神戸大学国際文化学部と発達科学部を 再編統合し、神戸大学国際人間科学部を設置
--------------	-------------------------------------------



最寄りの駅からのアクセス

最寄りの駅は、阪急電車「六甲」駅、JR「六甲道」駅または阪神電車「御影」駅。

鶴甲第1キャンパス

神戸市バス16系統、106系統「六甲ケーブル下方面」または「神戸大学鶴甲第一キャンパス東門」行に乗車、「神大国際文化学研究所前」で下車。

鶴甲第2キャンパス

神戸市バス36系統「鶴甲団地」行（「鶴甲2丁目止」行）に乗車、「神大人間発達環境学研究所前」で下車。

神戸大学 国際人間科学部

鶴甲第1キャンパス
 [グローバル文化学科]
 〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲1-2-1
 電話 078-803-7515 (代表)

鶴甲第2キャンパス
 [発達コミュニティ学科、環境共生学科、子ども教育学科]
 〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲3-11
 電話 078-803-7905 (代表)

<https://www.fgh.kobe-u.ac.jp>

2021年6月発行



